

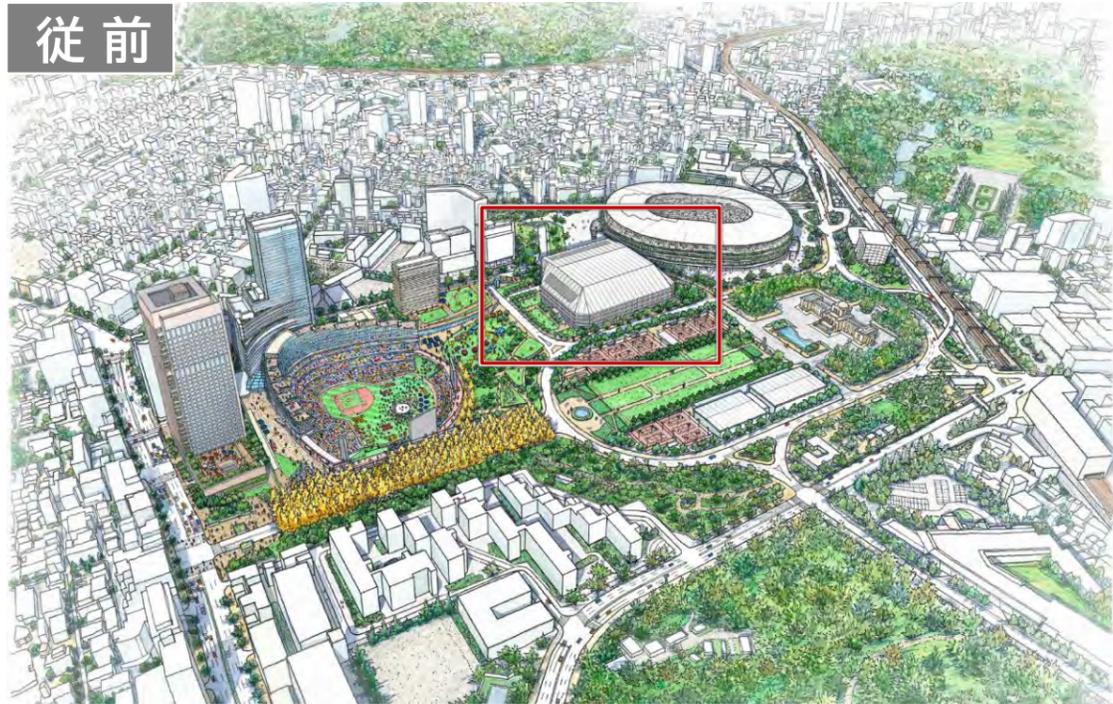
新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業

第80回 新宿区景観まちづくり審議会

[報告1]資料

2025.1.29

従前



第72回 新宿区景観まちづくり審議会 令和3年10月28日

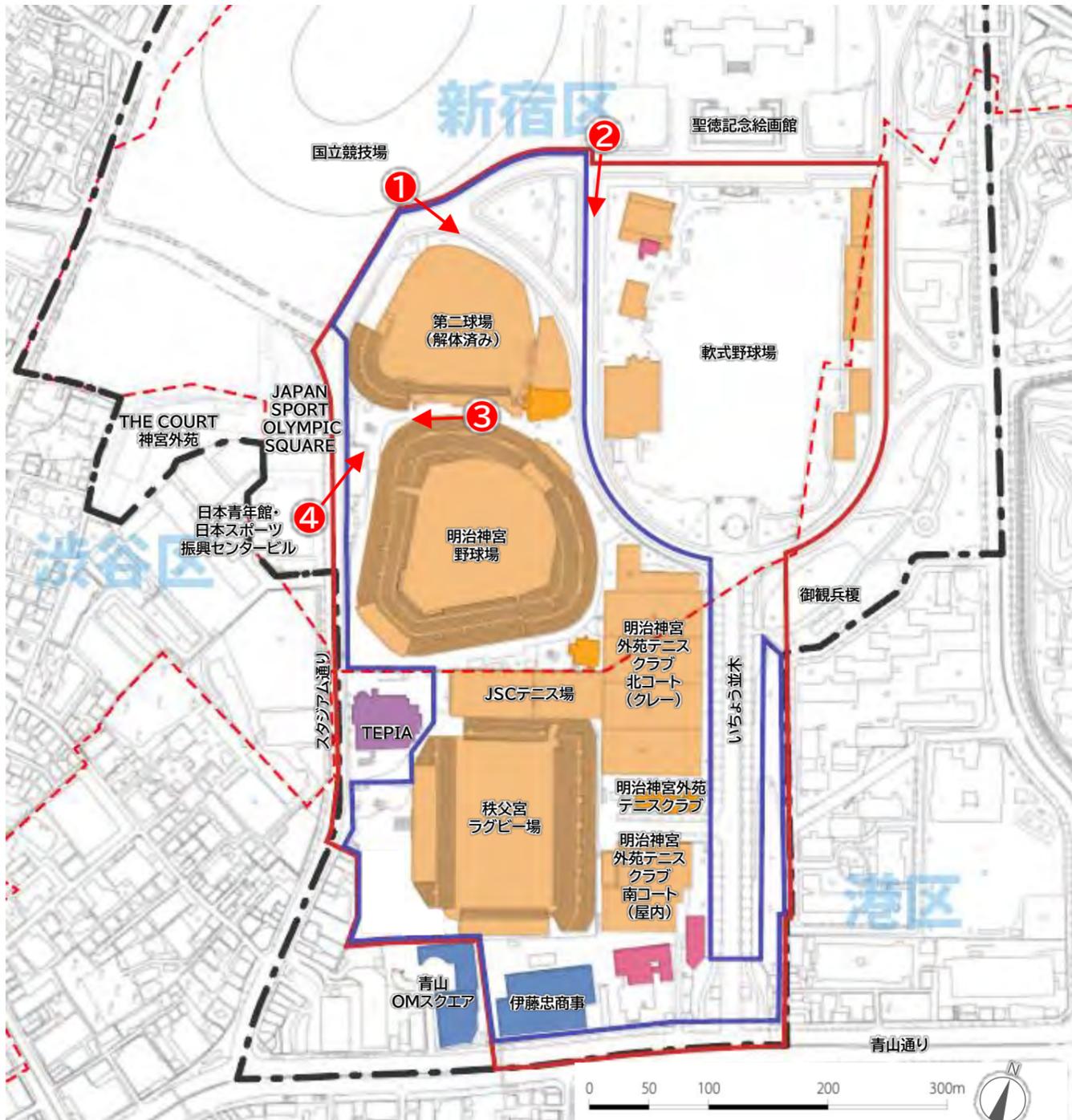
従後



建設地	東京都新宿区霞ヶ丘町3番2号
敷地面積	43,476.27㎡
建築面積	約26,000㎡
建ぺい率	約59.99%
延床面積	約72,500㎡
容積対象延床面積	約64,600㎡
容積率	約149%
階数	地下1階 地上8階
高さ	約48m
主要用途	ラグビー場、文化交流施設、店舗、駐車場
予定工期	2026年2月以降で着工可能予定

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

02 付近見取図



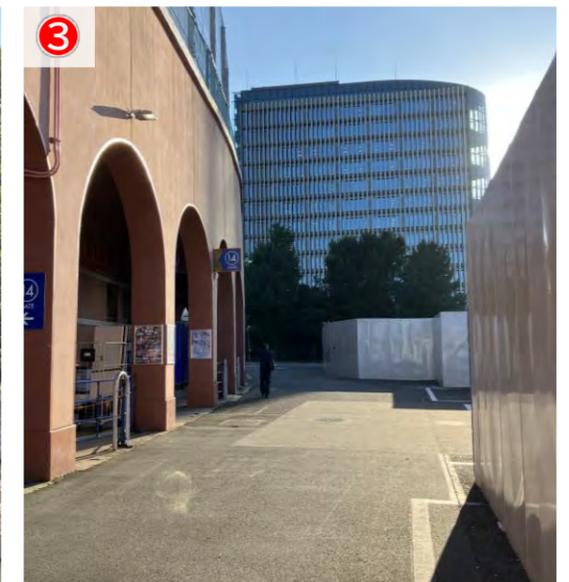
現状の施設配置図

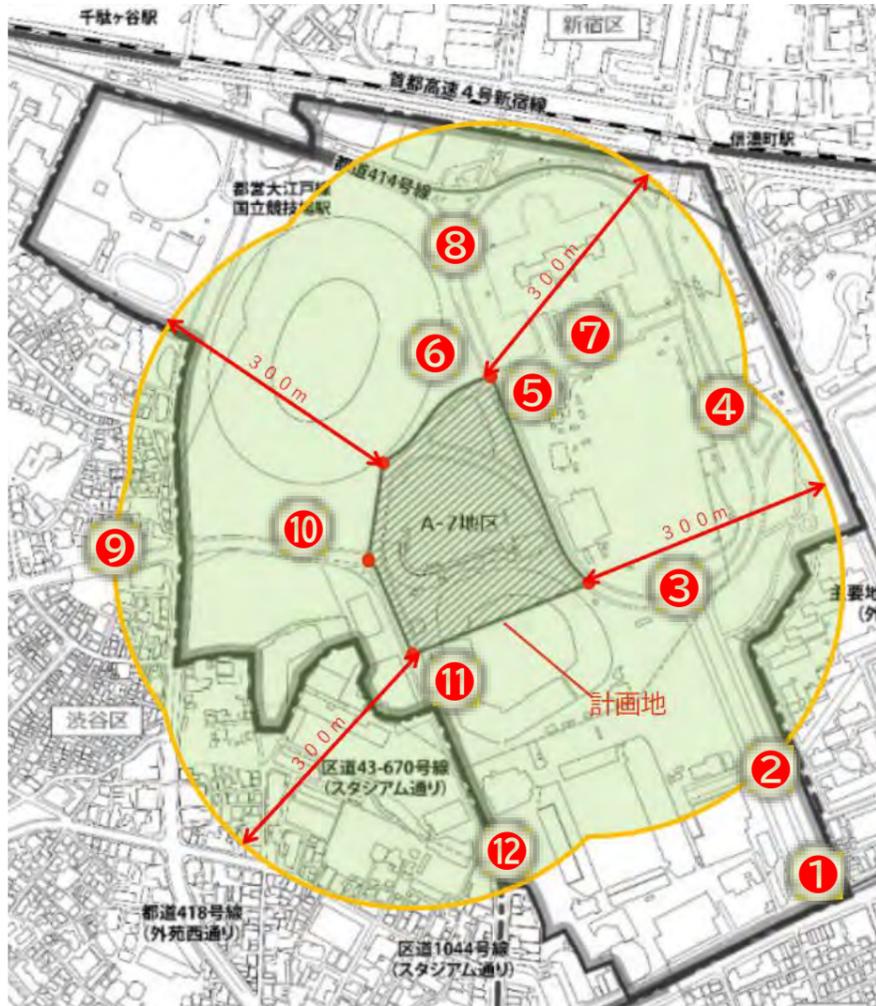
【凡例】

- : スポーツ施設付属機能
- : 商業施設
- : 業務施設
- : 文化/教育施設
- : 地区計画の区域
- : 再開発事業の区域
- : 促進区の整備計画を進める区域
- : 区界

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

03 現況写真





1 青山通りから聖徳記念絵画館を望む。銀杏並木が均等配列されており、見通しのきく直進街路の突きあたりに記念碑的な建造物を据えた日本を代表するヴィスタ景を形成している。



2 銀杏並木。片側2列、計4列配置された銀杏が神宮外苑へと人々を誘い、連続感を生み出している。通り沿いには飲食店が立ち並び、賑わっている。



3 絵画館前広場。複数の野球場やフットサルコートになっており視線を遮る要素がない、開けた空間。一方でフェンスで仕切られているため、自由な出入りはできない。



4 権田原交差点越しの絵画館前広場。神宮外苑のリングロード沿いは樹木が茂っており、深い木々の緑と空の青のコントラストが人々に憩いを感じさせる空間。



5 「建国記念の日」の制定を記念して建てられた旧建国記念文庫。生い茂った木々が小さな森をなしているが、周辺が周囲を車道に挟まれており陸の孤島化している。



6 国立競技場。外構散策が可能な遊歩道には、過去2回開催された東京オリンピックの炬火台、聖火台、壁画などスポーツレガシーを身近に感じられるオブジェが配置されており、わが国のスポーツが育んできた歴史や文化が感じられる場所になっている。



7 聖徳記念絵画館前。神宮外苑設立当初からある周回道路から一步入り、聖徳記念絵画館と大きな樹木が、周辺スポーツ施設の喧騒と異なる静と動の場所を形成している。



8 外苑東通り。国立競技場と聖徳記念絵画館、周辺の樹木が生い茂る場所は、車の往来が多い。国立競技場でイベントが開催される際は多くの人々がつどい賑やかである。



9 仙寿院交差点。国立競技場と明治公園を繋ぐデッキトンネルが都市と公園の境界を演出している。



10 国立競技場南。緩やかな坂道を上ると、神宮球場、国立競技場を繋ぐスタジアム通りに結節し聖徳記念絵画館側とは違う、下町の賑わいが感じられる小さな商店が立ち並ぶ。



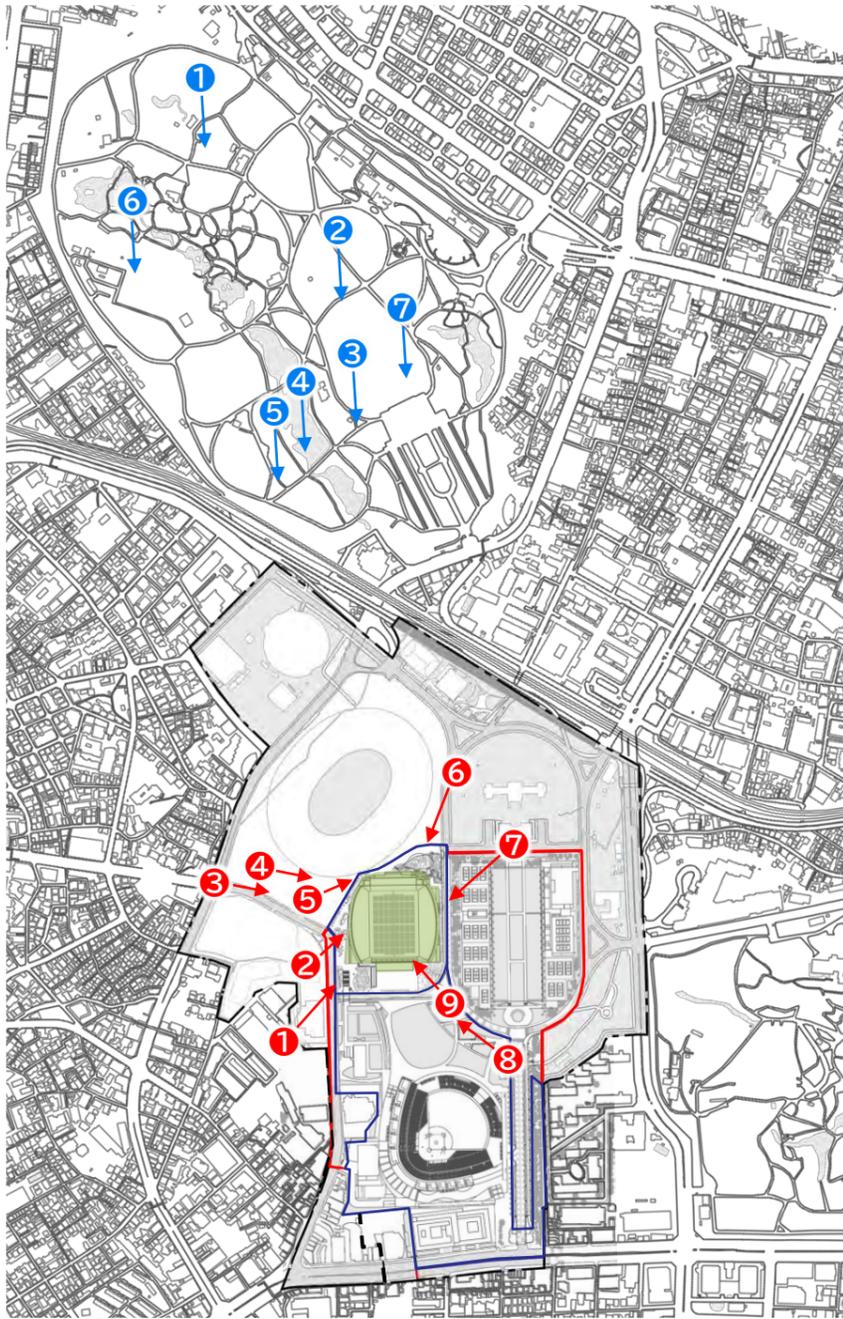
11 スタジアム通り。東側に神宮球場、西側に都立高校、日本青年館が配置された、文化・スポーツ・教育が集まった活気がある賑やかな通り。車の往来も多い。



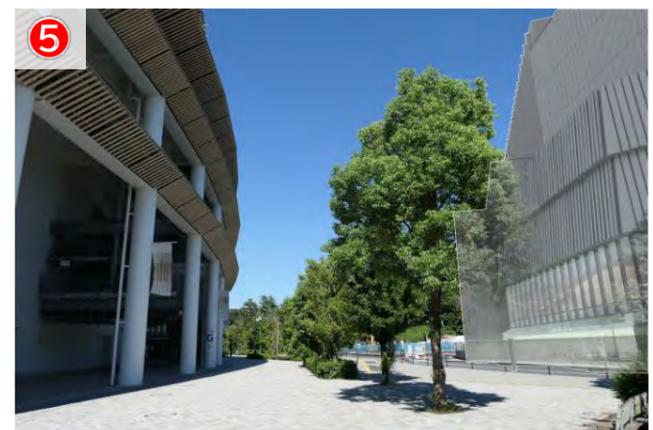
12 スタジアム通り。青山通り、外苑前駅から国立競技場を結ぶ、古くからの商店が立ち並ぶ下町の賑わいが感じられる。西側は路地がひしめく低層住宅地との境界を形成している。



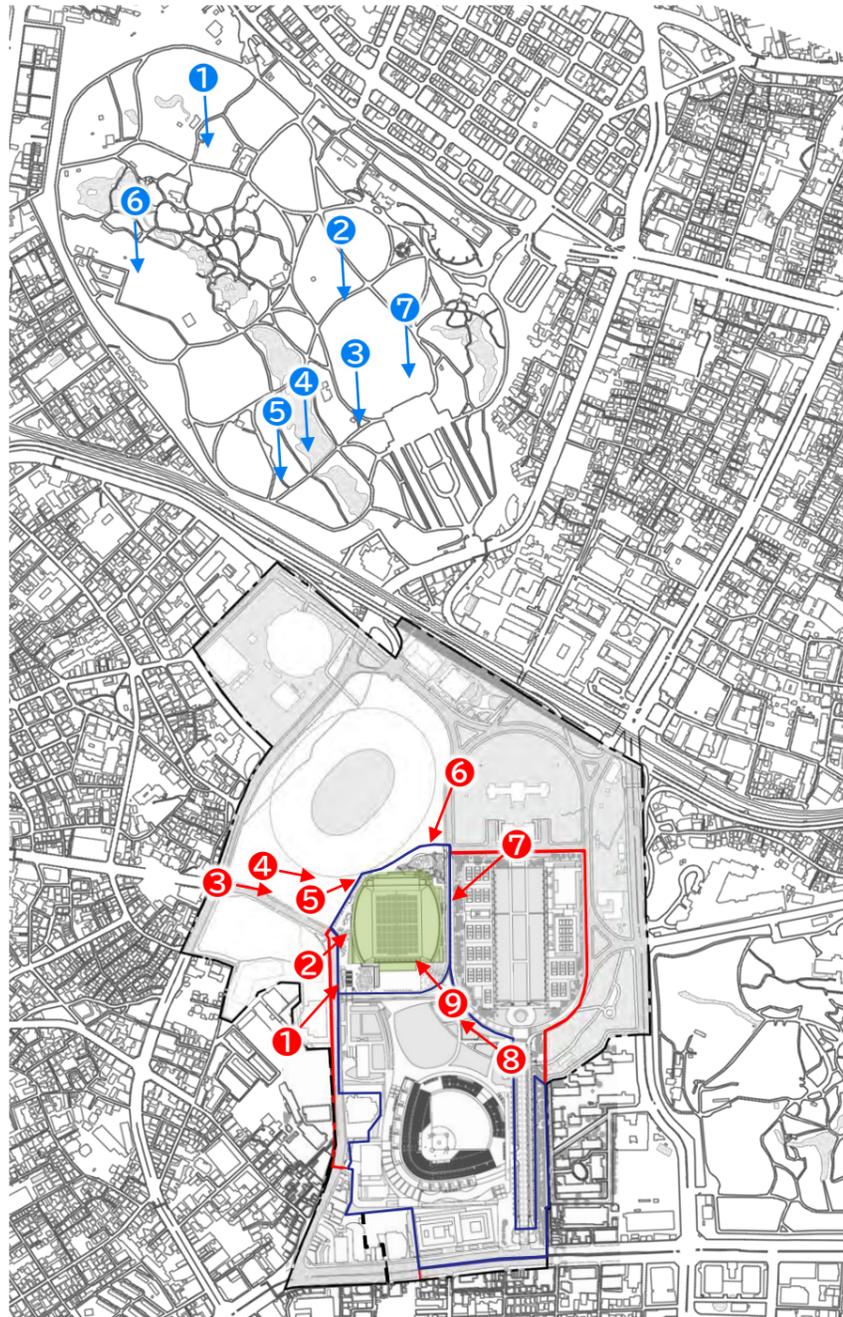
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。



【凡例】
 ● : 眺望点 ● : 新宿御苑の眺望地点



※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

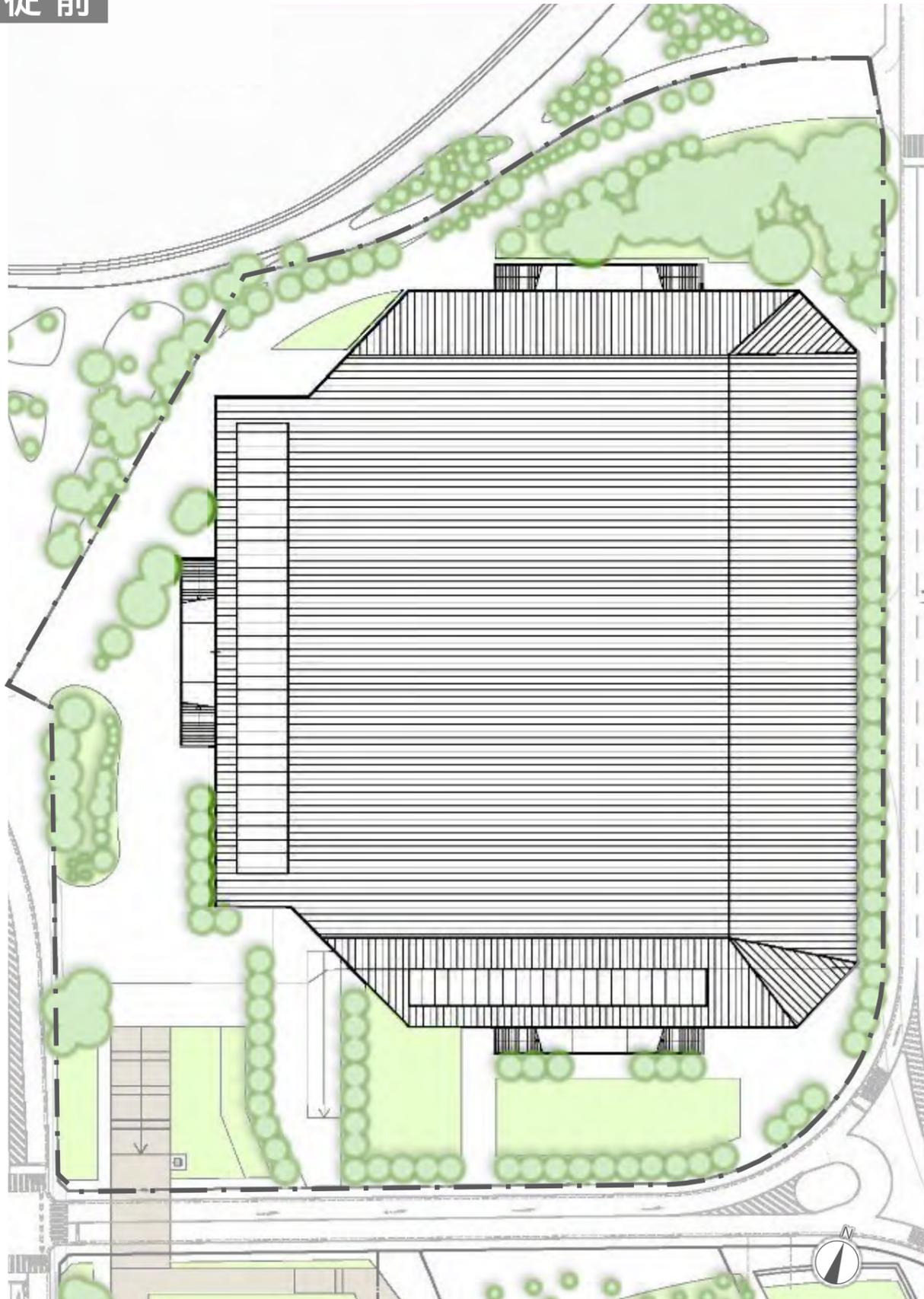


【凡例】
 ● : 眺望点 ● : 新宿御苑の眺望地点

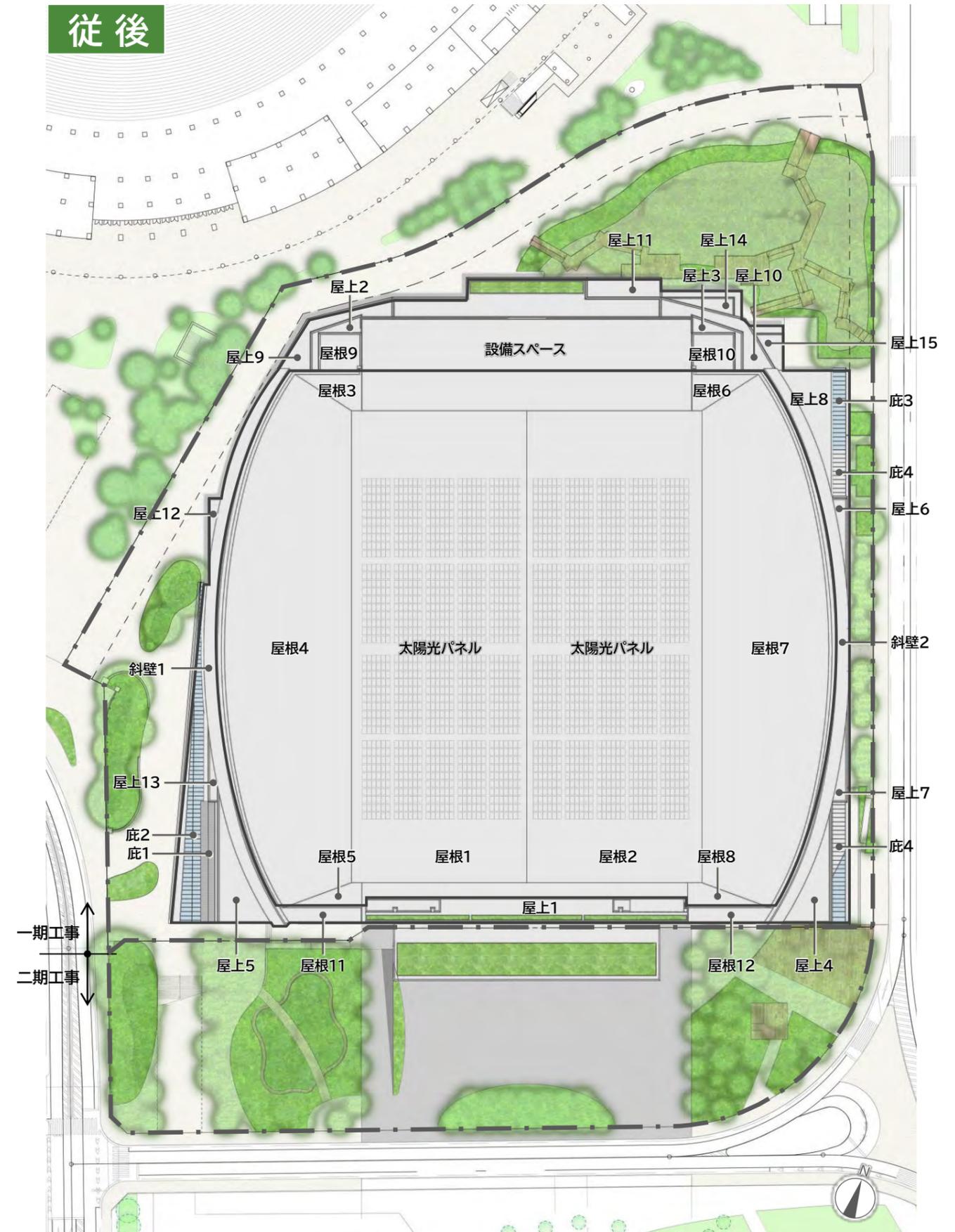


※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

従前

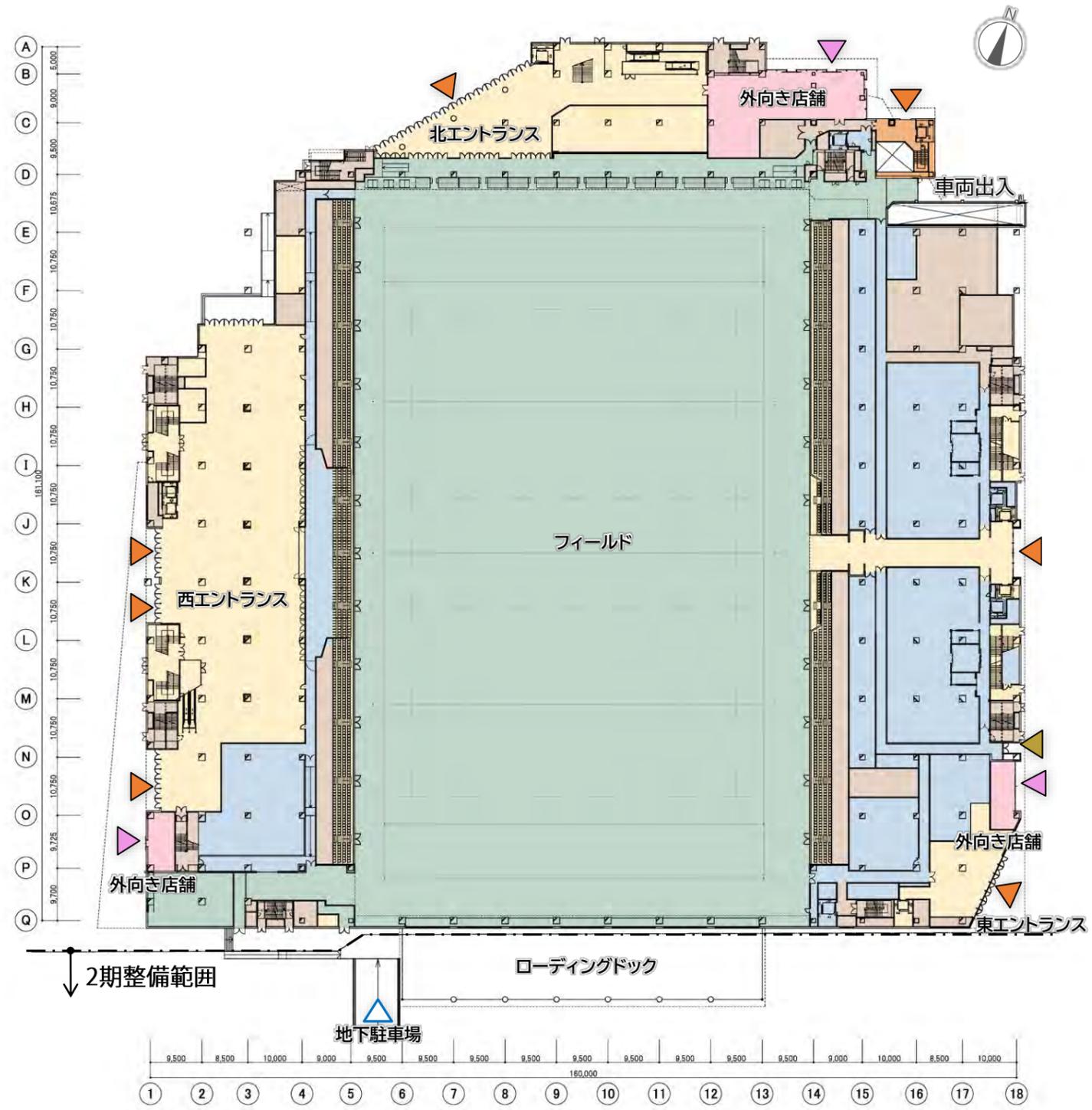
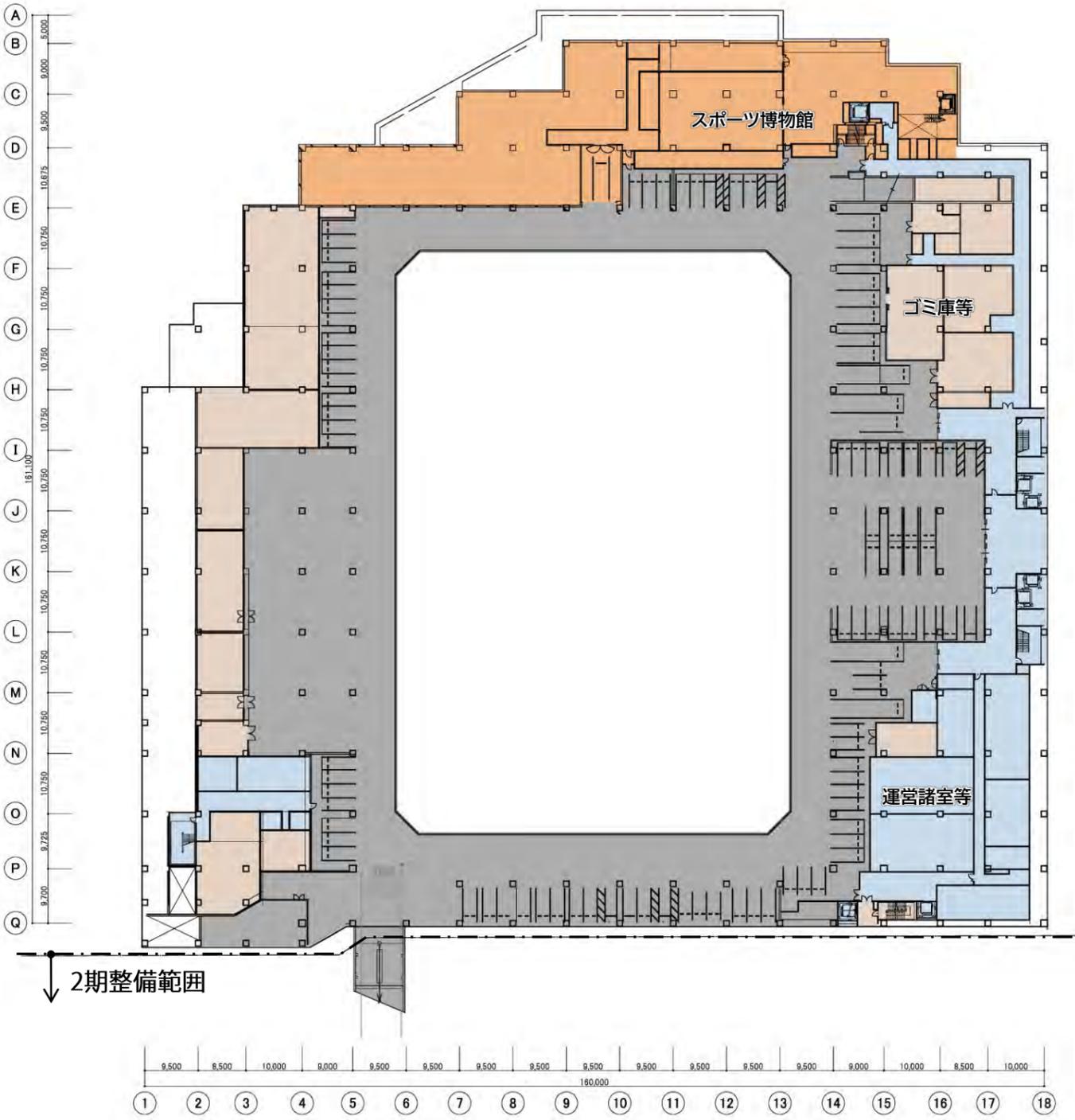


従後



※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

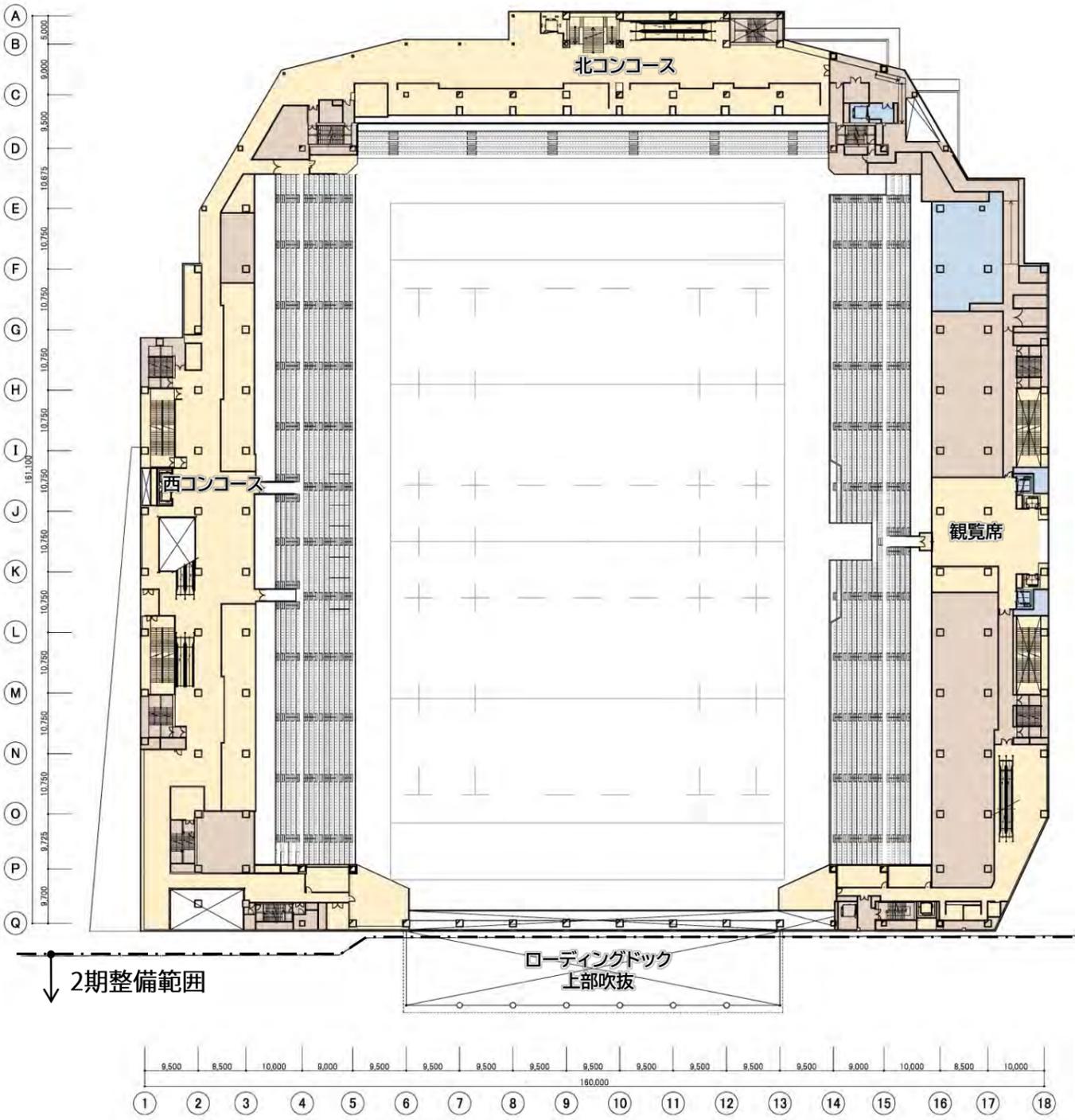
【入口凡例】		【ゾーン分け凡例】	
▲	: 運営関係者	■	: 運営関係者
▲	: 観客	■	: スポーツ博物館
▲	: 外向き店舗	■	: 施設関係者
▲	: 施設関係者	■	: 店舗・売店
		■	: 駐車場・車路



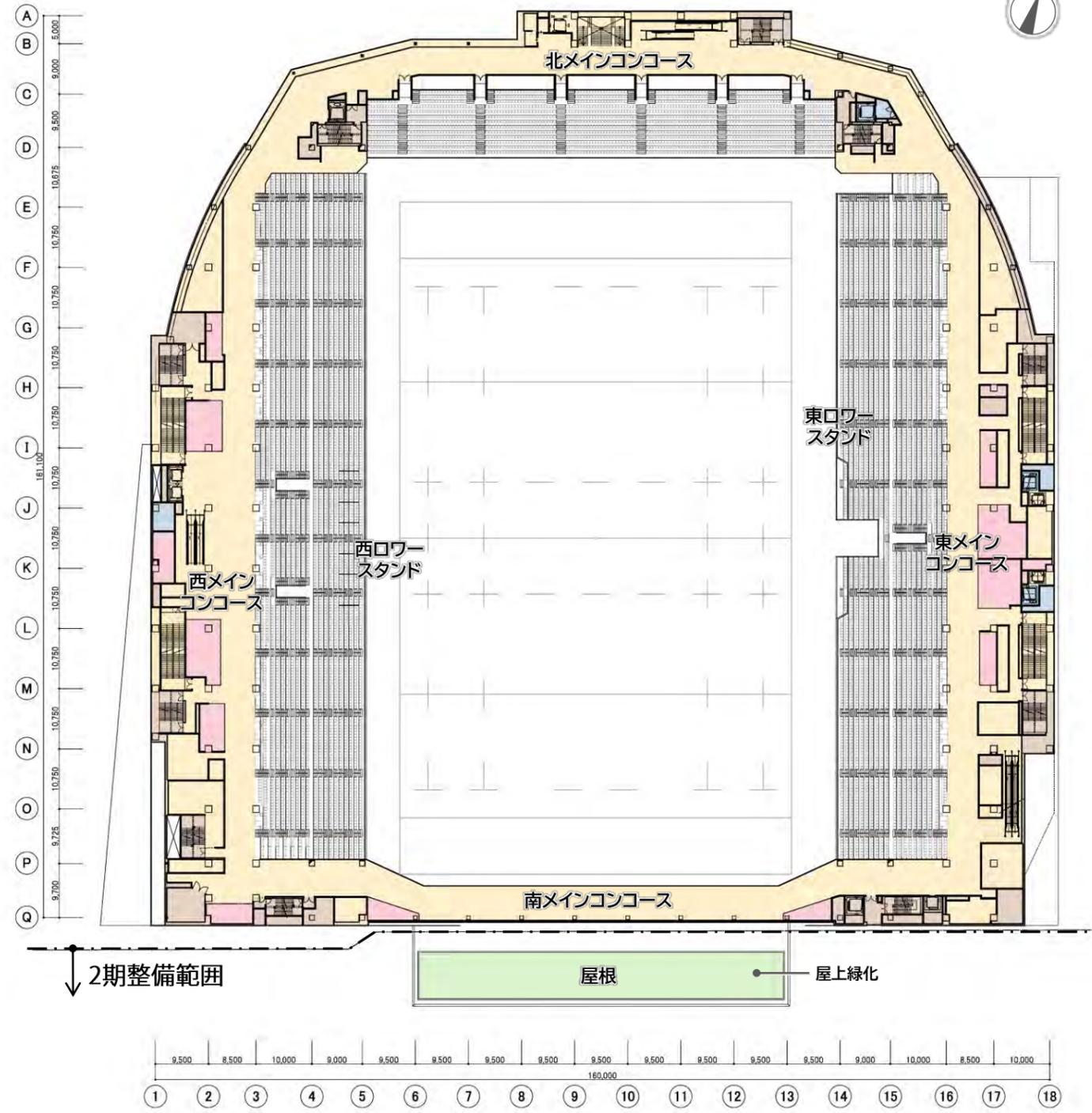
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

【ゾーン分け凡例】

■ (Blue)	: 運営関係者	■ (Brown)	: 施設関係者
■ (Yellow)	: 観客	■ (Pink)	: 店舗・売店
■ (Grey)	: 駐車場・車路		



2階平面図 S=1/1000

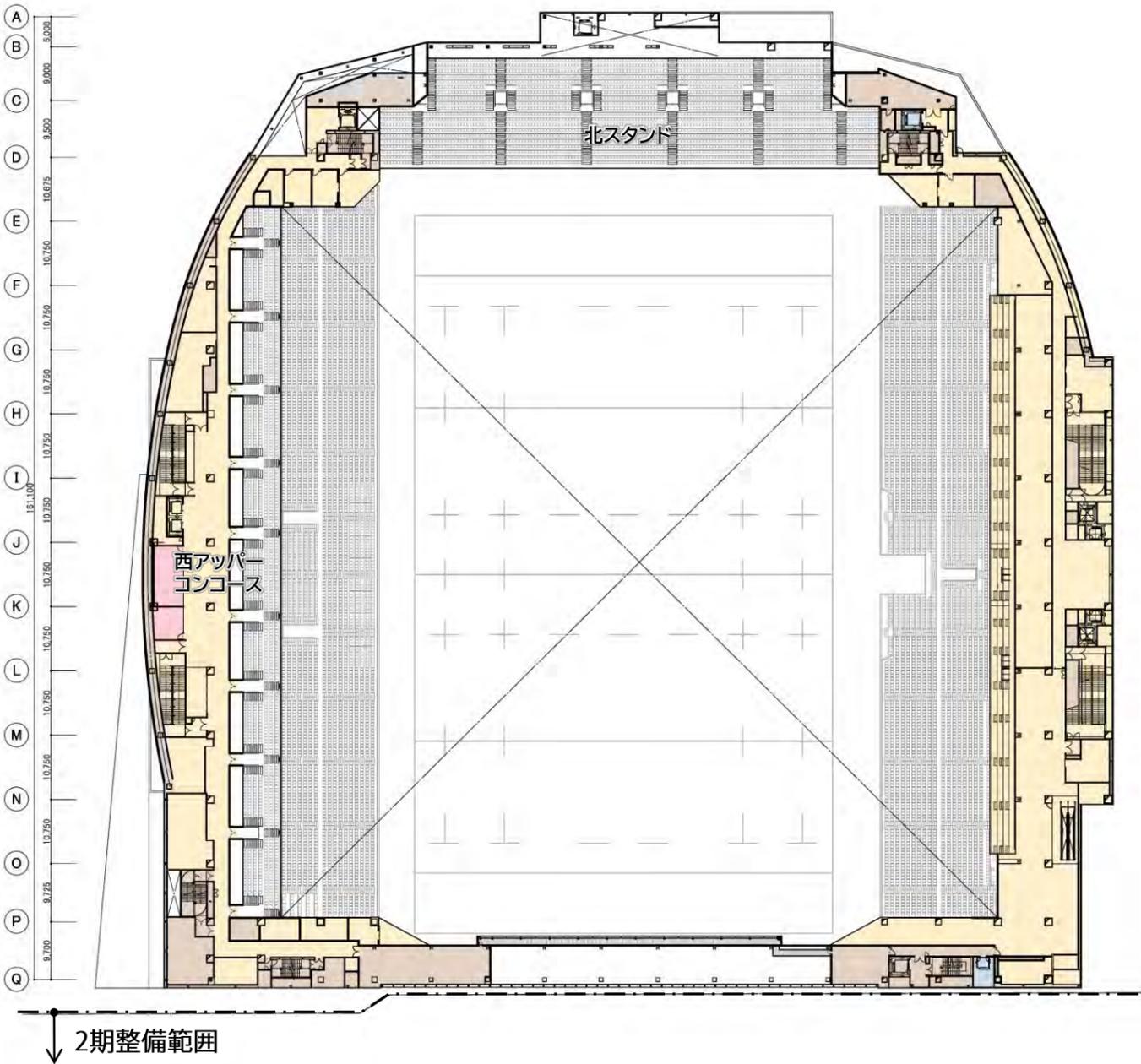


3階平面図 S=1/1000

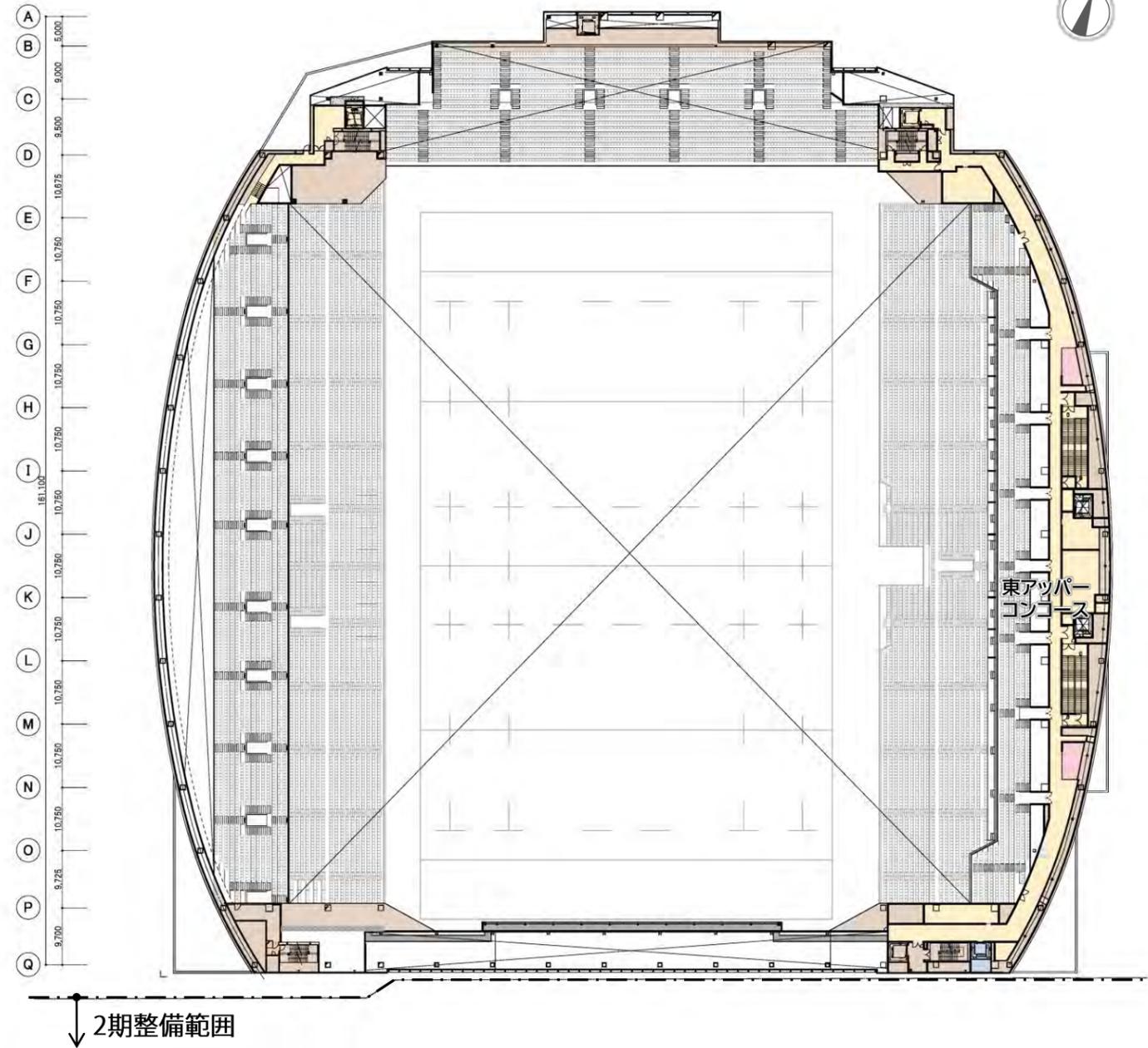
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

【ゾーン分け凡例】

■ (Blue)	: 運営関係者	■ (Light Blue)	: 施設関係者
■ (Yellow)	: 観客	■ (Pink)	: 店舗・売店
■ (Light Yellow)		■ (Grey)	: 駐車場・車路



4階平面図 S=1/1000



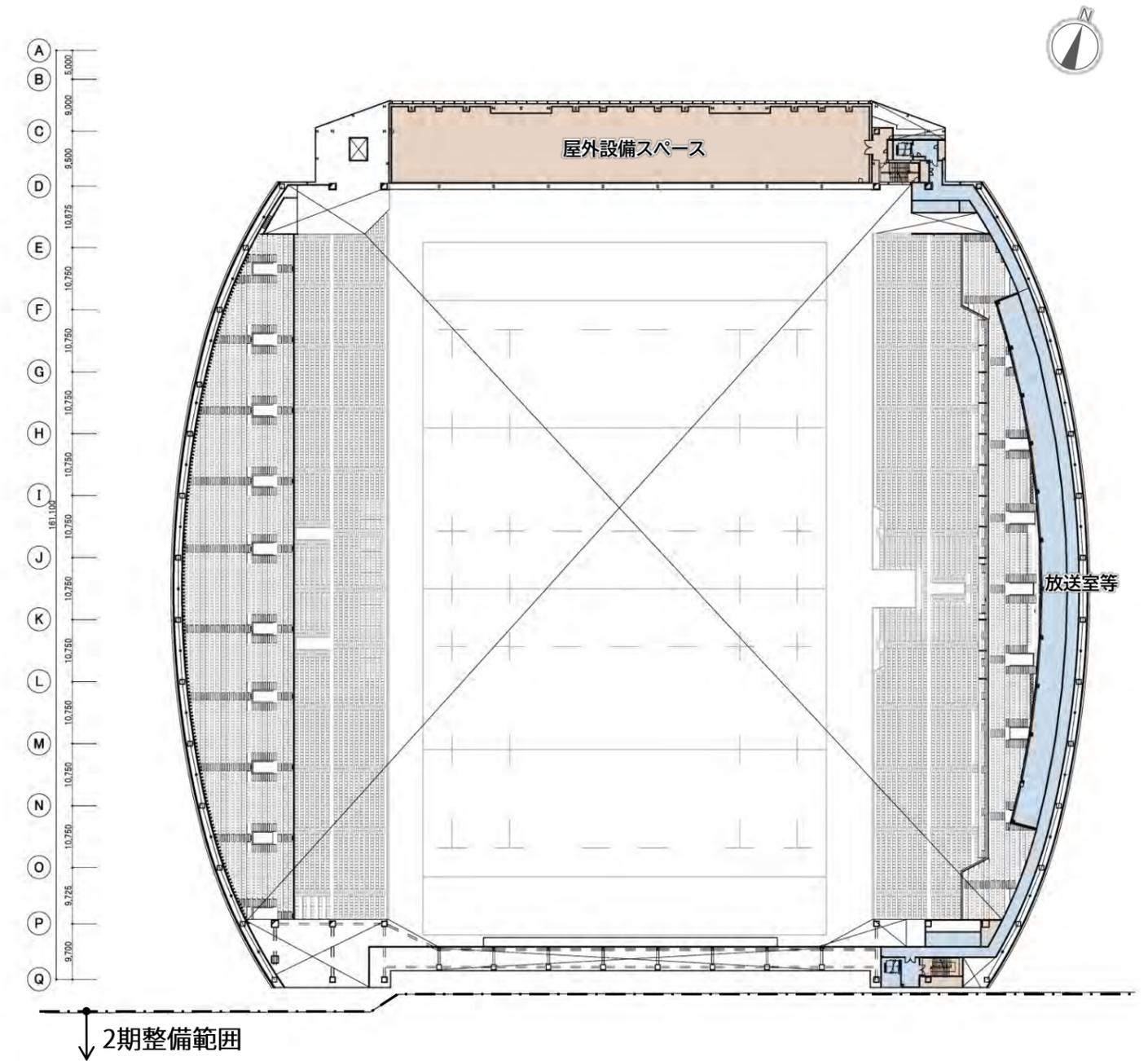
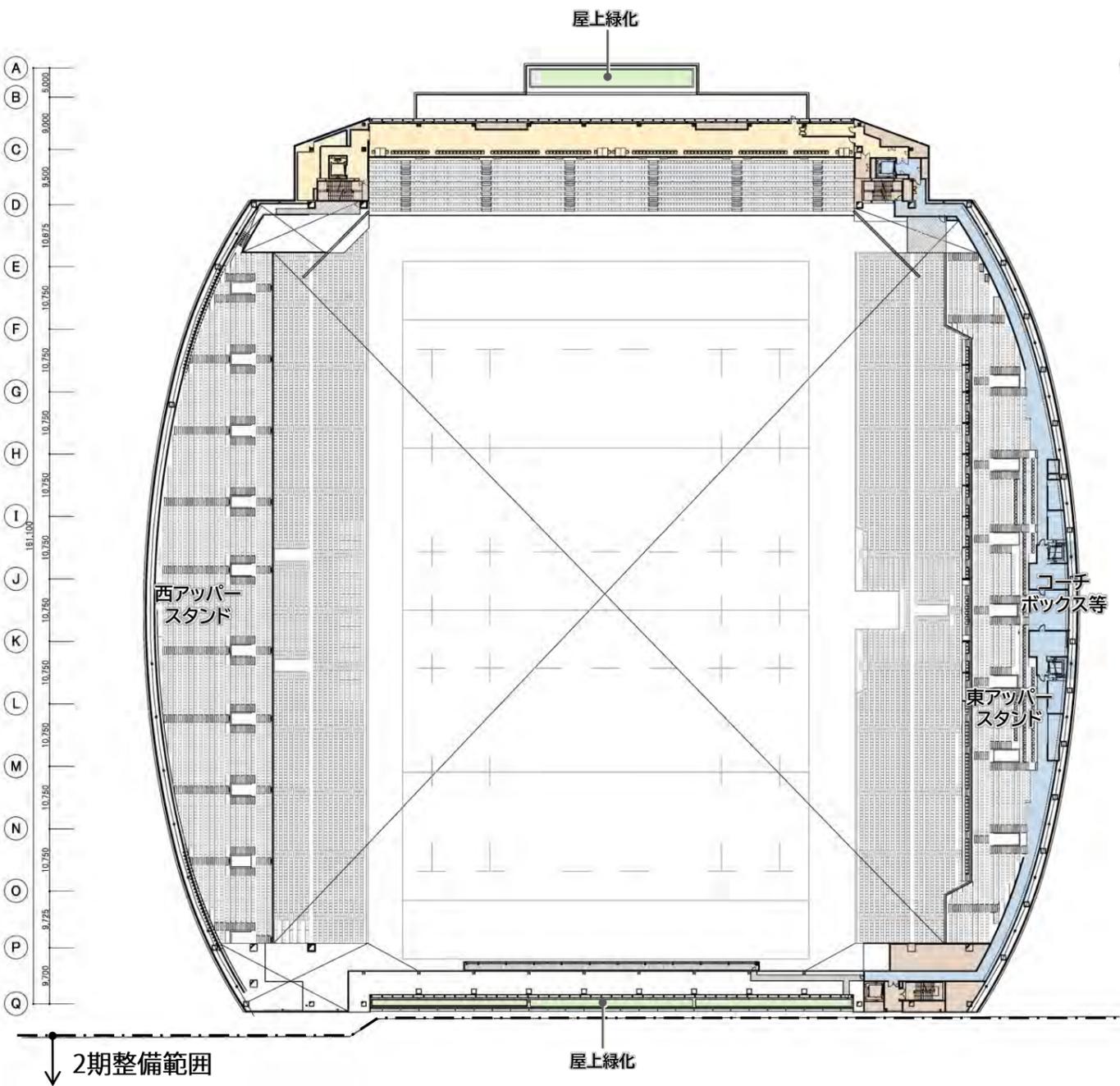
5階平面図 S=1/1000

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

【ゾーン分け凡例】

■ (Blue)	: 運営関係者	■ (Light Blue)	: 施設関係者
■ (Yellow)	: 観客	■ (Pink)	: 店舗・売店
■ (Light Green)	: 屋上緑化	■ (Grey)	: 駐車場・車路

※設備機器が立面上見えない壁面高さで目隠しする

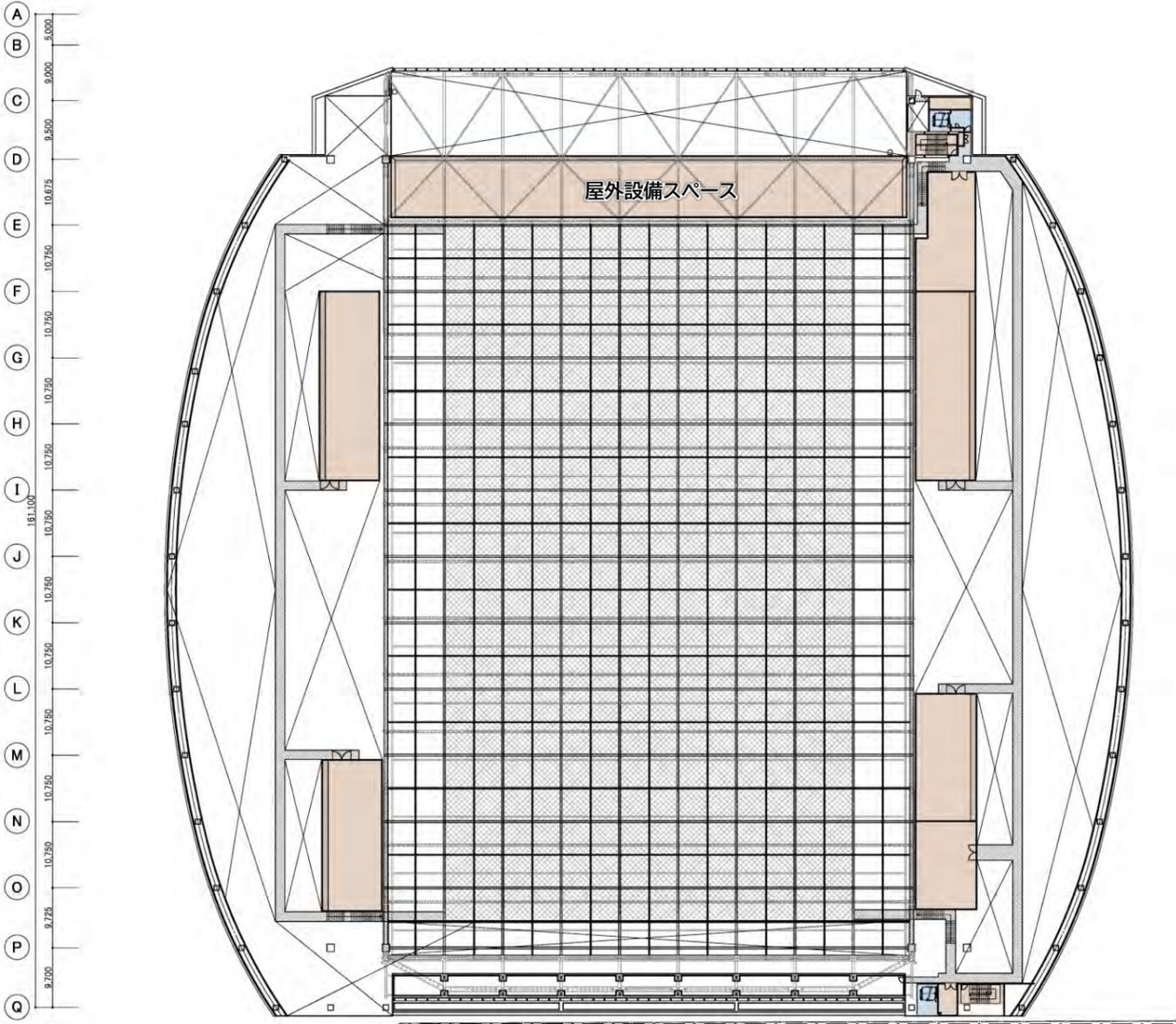


※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

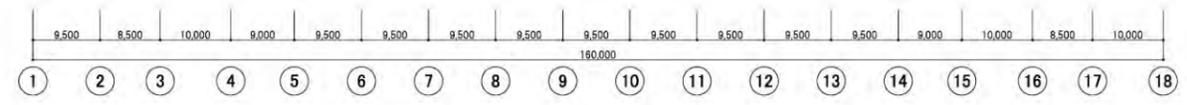
【ゾーン分け凡例】

 : 運営関係者	 : 施設関係者
 : 観客	 : 駐車場・車路
 : 店舗・売店	

※設備機器が立面上見えない壁面高さで目隠しする



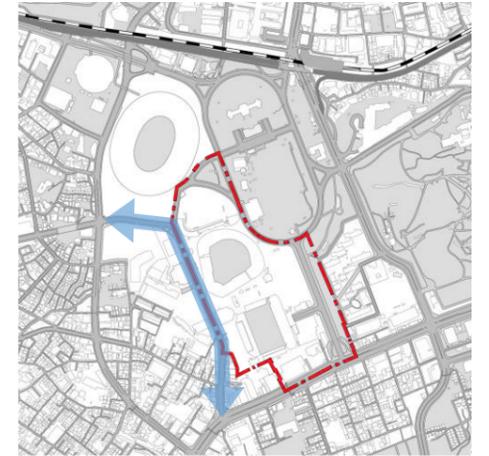
↓ 2期整備範囲



8階平面図 S=1/1000

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

- 様々な視点から検証し、最高高さは定められた55mよりも低い約48mとし、周辺建物と同等のスカイラインとなるよう外観・屋根をデザインし、眺望景觀に配慮します。
- 施設の北東角及び南東角を最大限セットバックさせることで、約130mの長い壁面を弓なり曲面とすることで圧迫感を軽減した計画とします。
- 隣接の国立競技場と絵画館と軒高を同程度とし、さらに上部を傾斜屋根とし歩行動線上からの視認性を保ちつつ、ゆるやかな円弧状の大屋根が圧迫感を軽減します。
- 国立競技場に面する北西壁面は内外を一体的につなげるガラスを使用し、目線レベルの圧迫感をなくすため、低層部平面は凹凸の形状で分節します。
- 今後の設計の深度化において、高さは更なる低減を図ります。

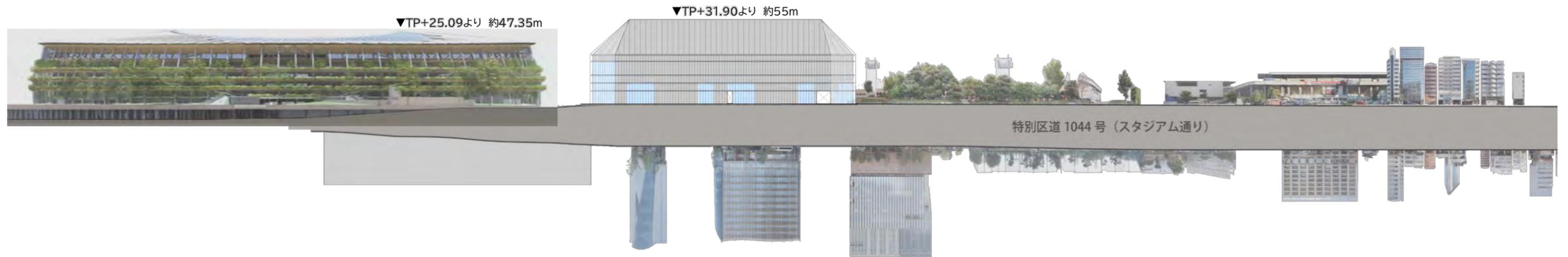


連続立面図の範囲を示す

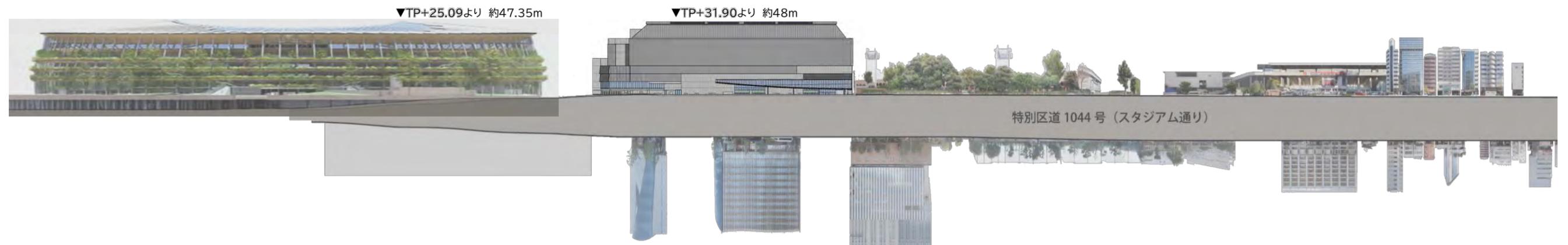
◆スタジアム通り沿いの連続立面図(ラグビー場一期完了時)

従前

第72回 新宿区景観まちづくり審議会 令和3年10月28日



従後



※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

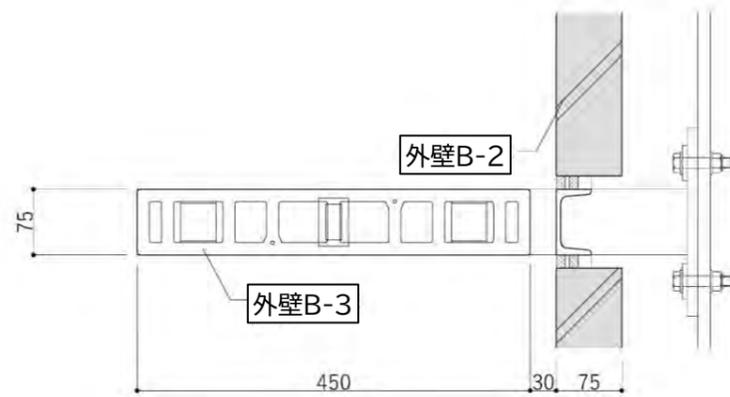
【外装仕上げ凡例】

- 外壁A : フッ素ガルバリウム板 ⑤
- 外壁B-1 : 押出成形セメント板 W600 ①
- 外壁B-2 : 押出成形セメント板 W900 ①
- 外壁B-3 : 押出成形セメント板 D450、W70 ①
- 屋根 : フッ素ガルバリウム板 ⑤
- 庇 : ガラス+木フレーム ④
- ガラス : ガラススクリーン ③
- ①: 押出成形セメント板ルーバー

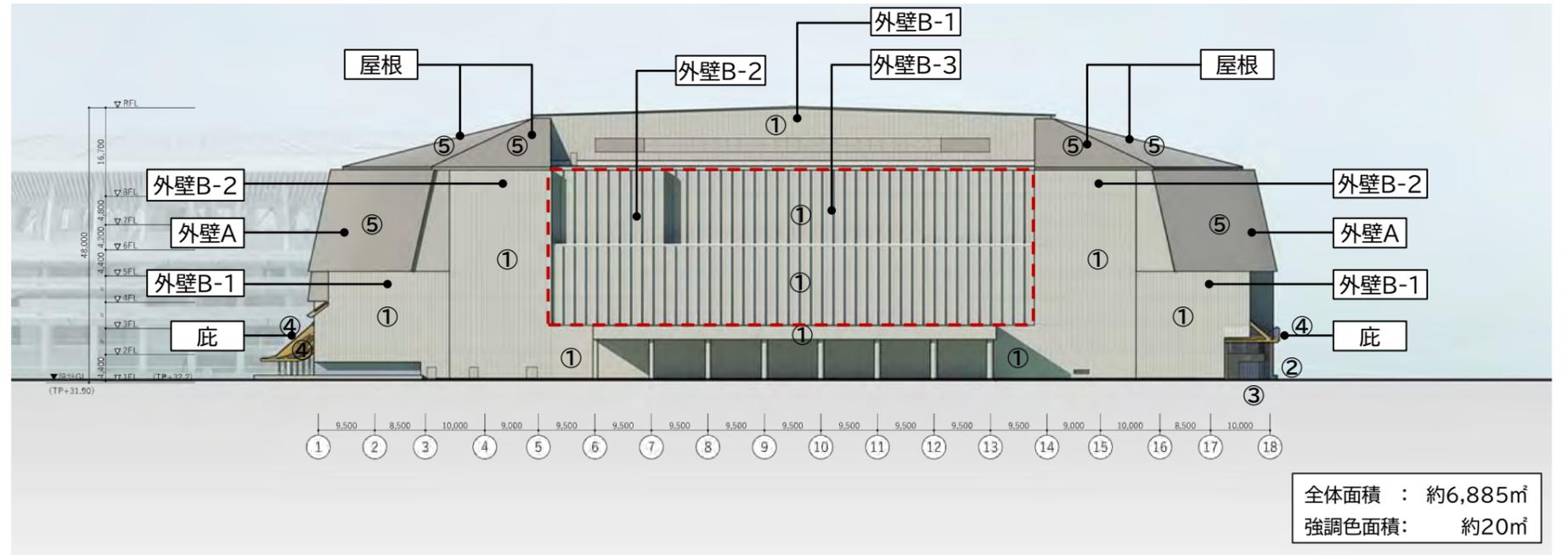
- ①2.5Y7.0 / 0.5(明度7.0 彩度0.5)
- ②5.0G 3.0 / 2.0(明度3.0 彩度2.0) 強調色
- ③0.1PB 6.3 / 2.9(明度6.3 彩度2.9)
- ④2.5Y 6.0 / 4.0(明度6.0 彩度4.0)
- ⑤5Y7.0/0.5 (明度7.0 彩度0.5)



南立面ルーバーイメージ

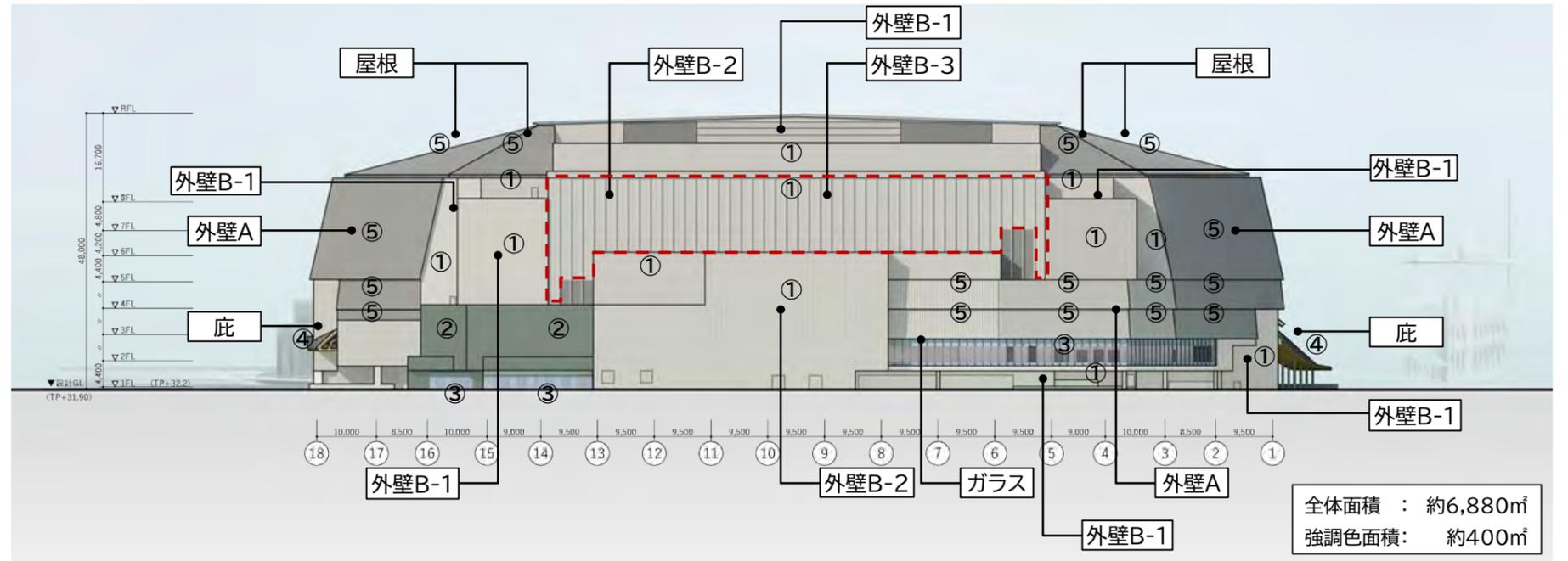


北南立面押出成形セメント板ルーバー
詳細平断面図



全体面積 : 約6,885㎡
強調色面積 : 約20㎡

南立面図 S=1/1000



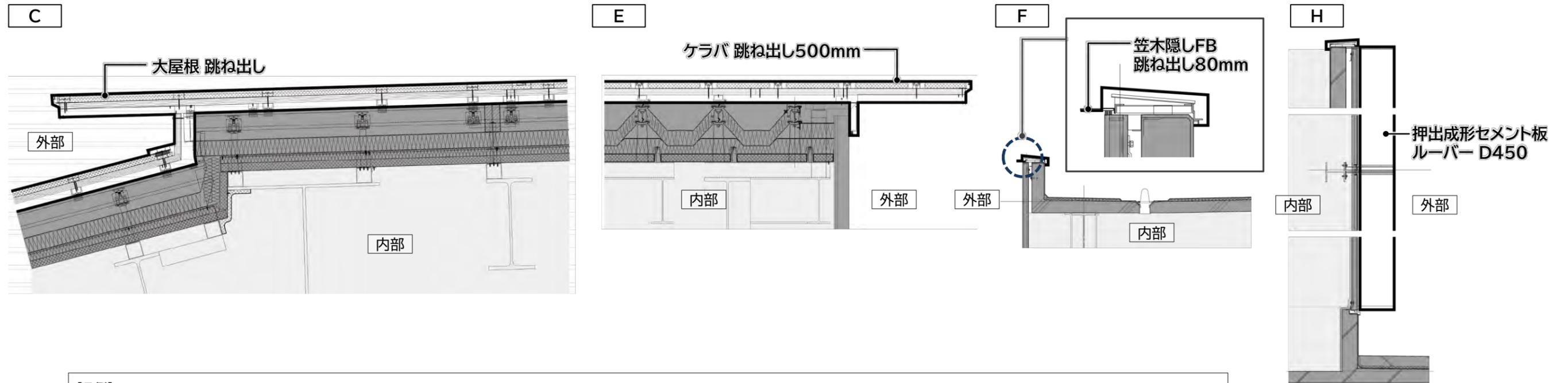
全体面積 : 約6,880㎡
強調色面積 : 約400㎡

北立面図 S=1/1000

※今後の設計の更なる深度化で高さをより抑えていきます

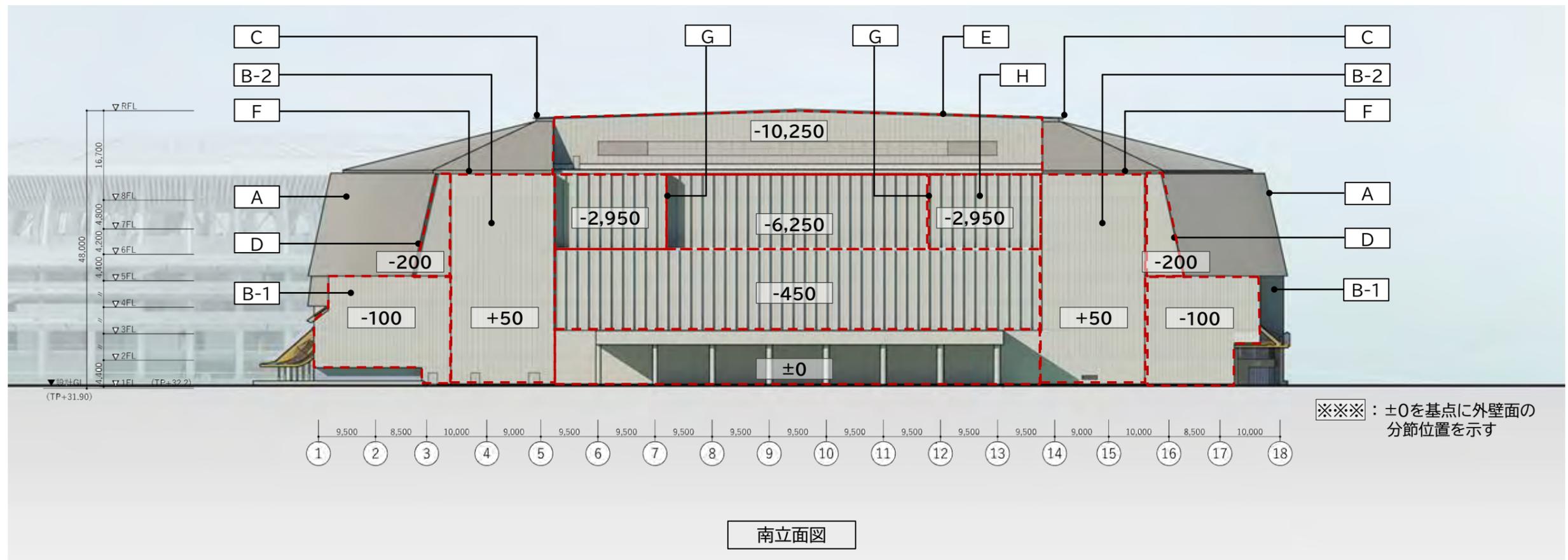
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

【参考詳細図】



【凡例】

- | | | | |
|--------------------|----------------------|----------------------|-------------------------|
| A : フッ素ガルバリウム板 化粧棧 | B-1 : 押出成形セメント板 W600 | B-2 : 押出成形セメント板 W900 | C : 大屋根 跳ね出し |
| D : 斜壁 跳ね出し500mm | E : ケラバ 跳ね出し500mm | F : 笠木隠しFB 跳ね出し80mm | G : 袖壁 設備 ガラリ |
| | | | H : 押出成形セメント板 ルーバー D450 |

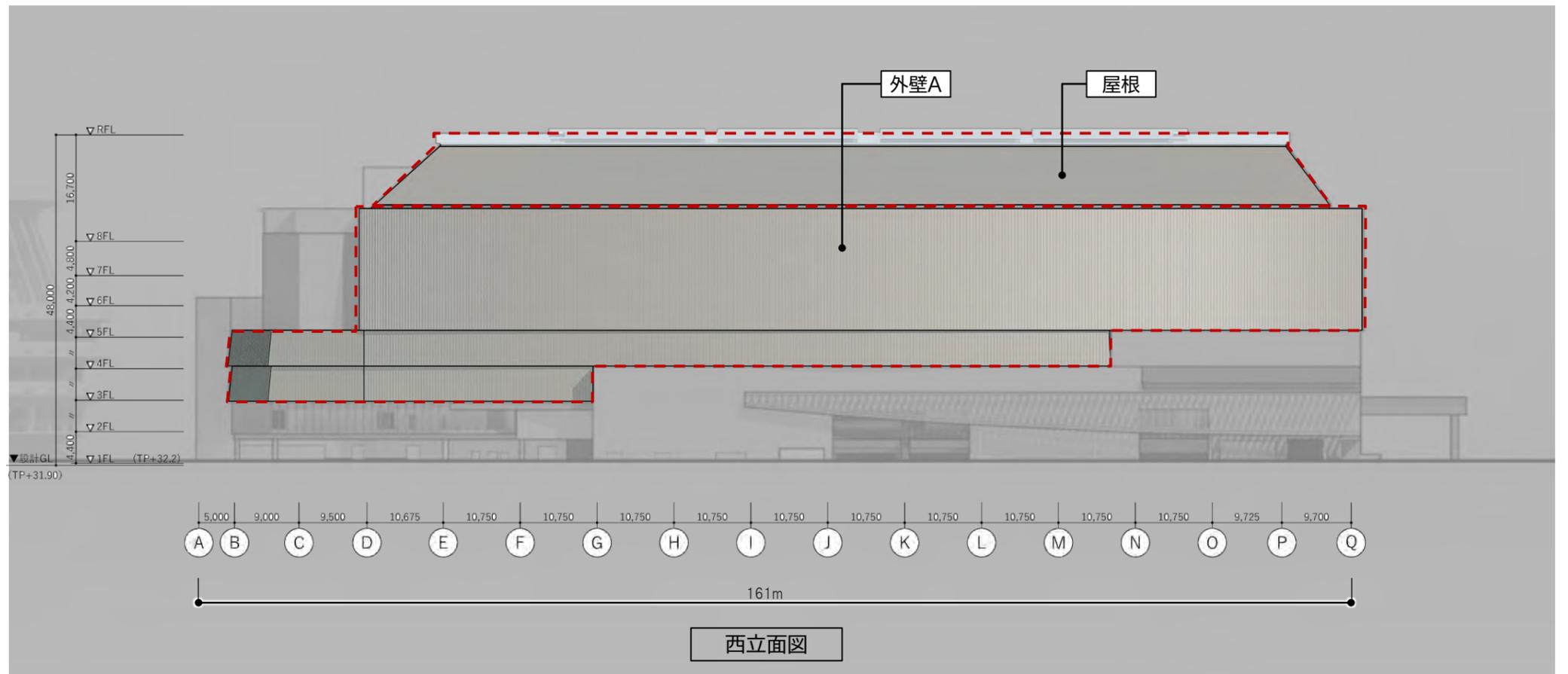
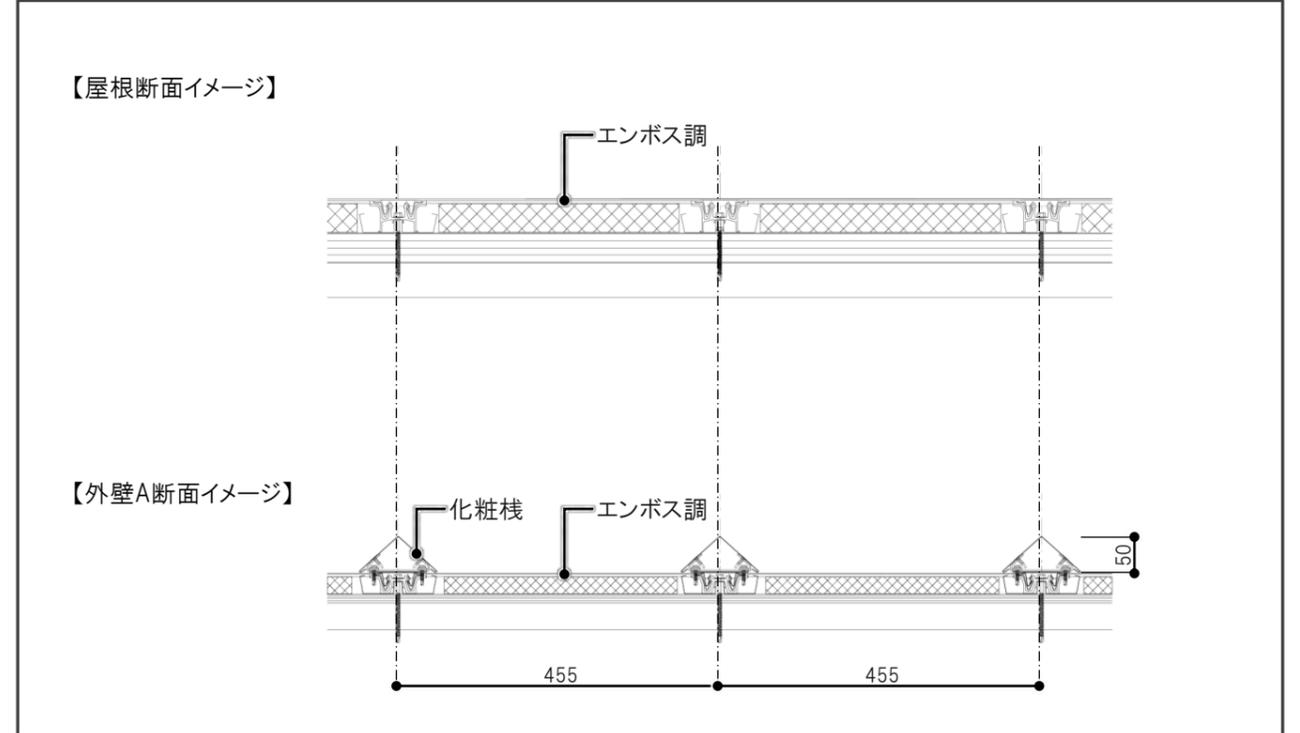
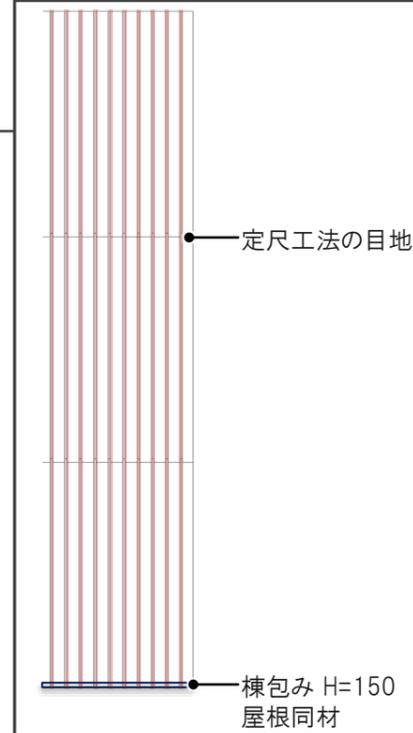


※今後の設計の更なる深度化で高さをより抑えていきます

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。



化粧棧ピッチ: 455mm、化粧棧 高さ H=50mm

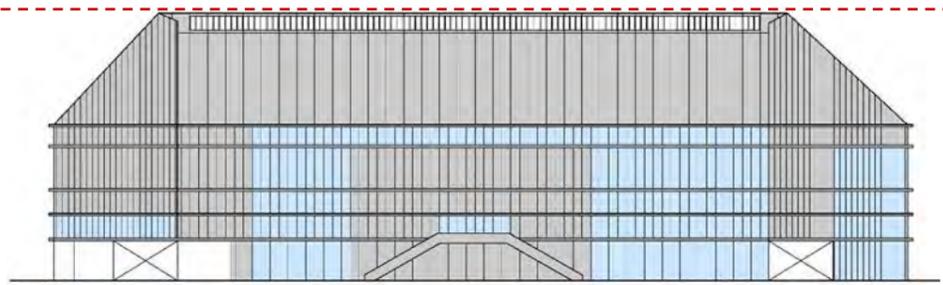


※今後の設計の更なる深度化で高さをより抑えていきます

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

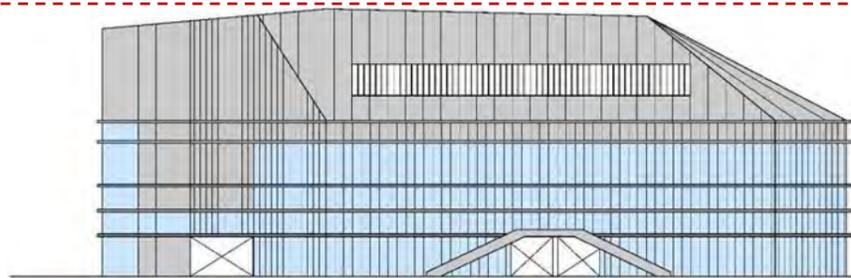
従前

55m



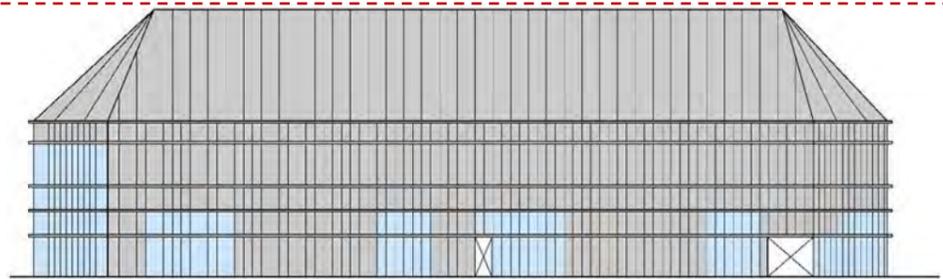
西立面図

55m



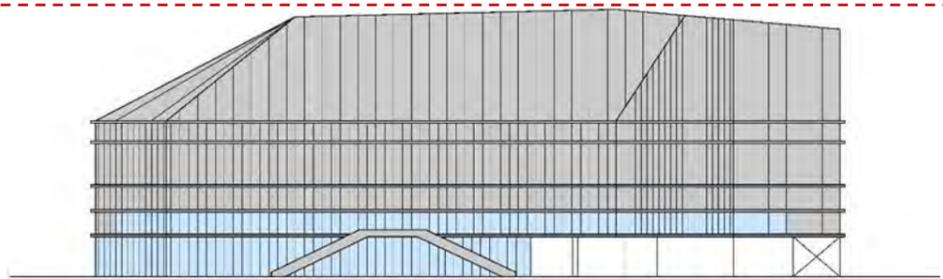
南立面図

55m



東立面図

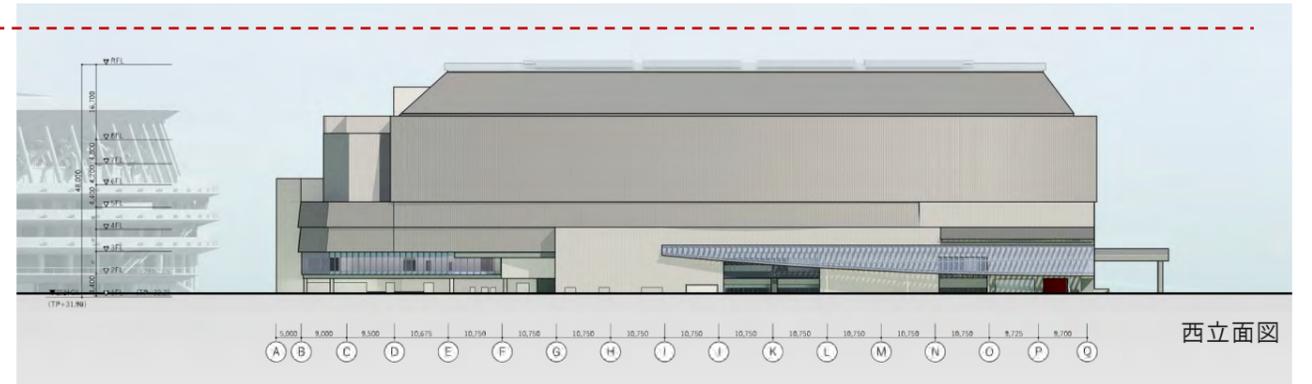
55m



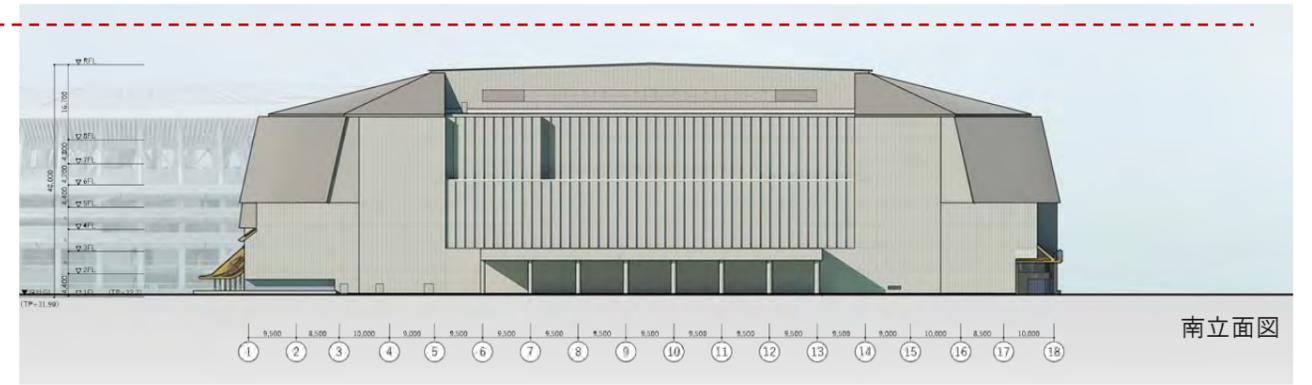
北立面図

0 10 20 50 100m

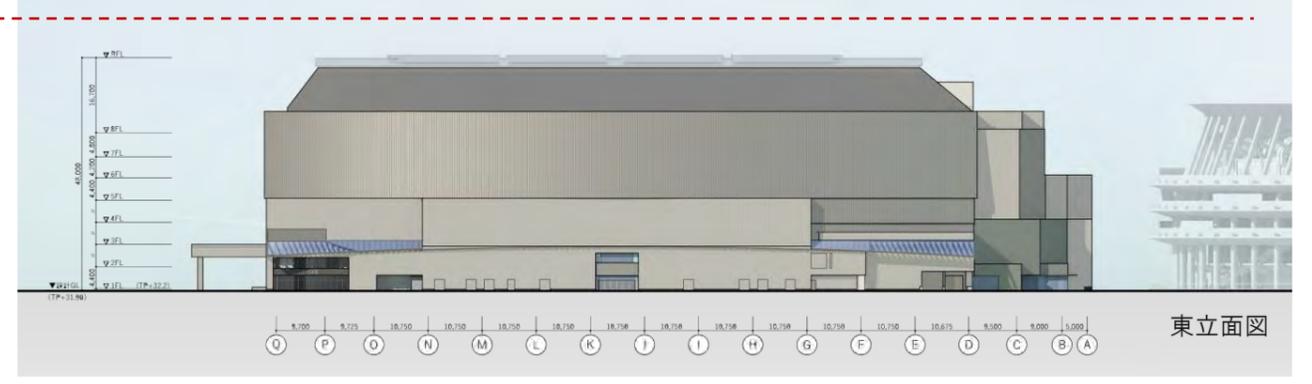
従後



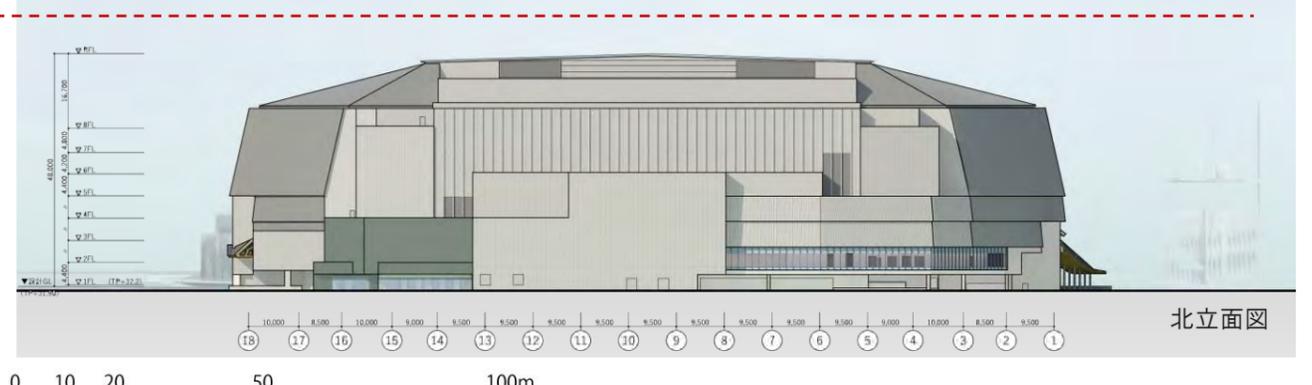
西立面図



南立面図



東立面図



北立面図

0 10 20 50 100m

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

◆地域性・敷地特性を踏まえた樹木の選定

・計画地の潜在自然植生はスダジイ-ヤブコウジ群集となり、周辺にはシラカシ群集やタブノキ-イノデ群集があります。

・代償植生としてはコナラ-イイギリ群落、コナラクヌギ群集、ムクノキ-ミズキ群落などが考えられます。



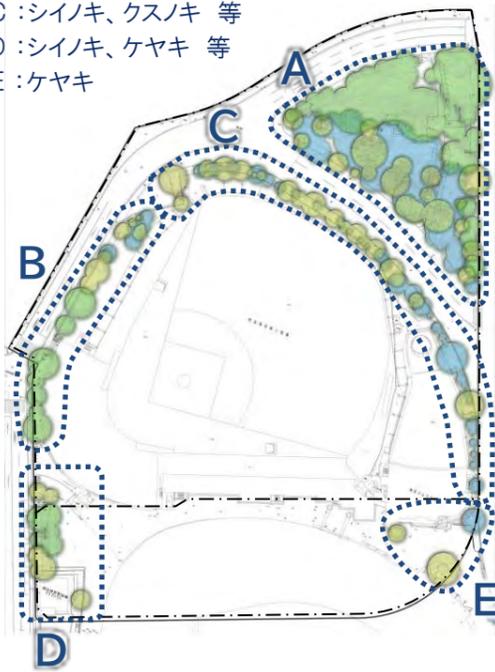
出典：日本植生誌 関東(宮脇昭 編著)

・土の状態を調査することで、本敷地に適した客土を用いた植栽計画とします。

潜在自然植生		
スダジイ-ヤブコウジ群集 アカガシ、スダジイ、モチノキ、ヤブツバキ、ネズミモチ、モッコク	シラカシ群集 エノキ、シロダモ、ケヤキ、ムクノキ、ネズミモチ、ヤブツバキ	タブノキ-イノデ群集 シロダモ、ネズミモチ、ヤブツバキ
代償植生		
コナラ-イイギリ群落 コナラ、ミズキ、イロハモミジ、エゴノキ、ムクノキ、シロダモ、モチノキ	コナラクヌギ群集 クヌギ、コナラ、ヤマザクラ、アカシデ、エゴノキ	ムクノキ-ミズキ群落 エノキ、ミズキ、イロハモミジ、エゴノキ
既存植栽樹木		
イチヨウ、オガタマノキ、イヌツグ、トウカエデ、サトザクラ		

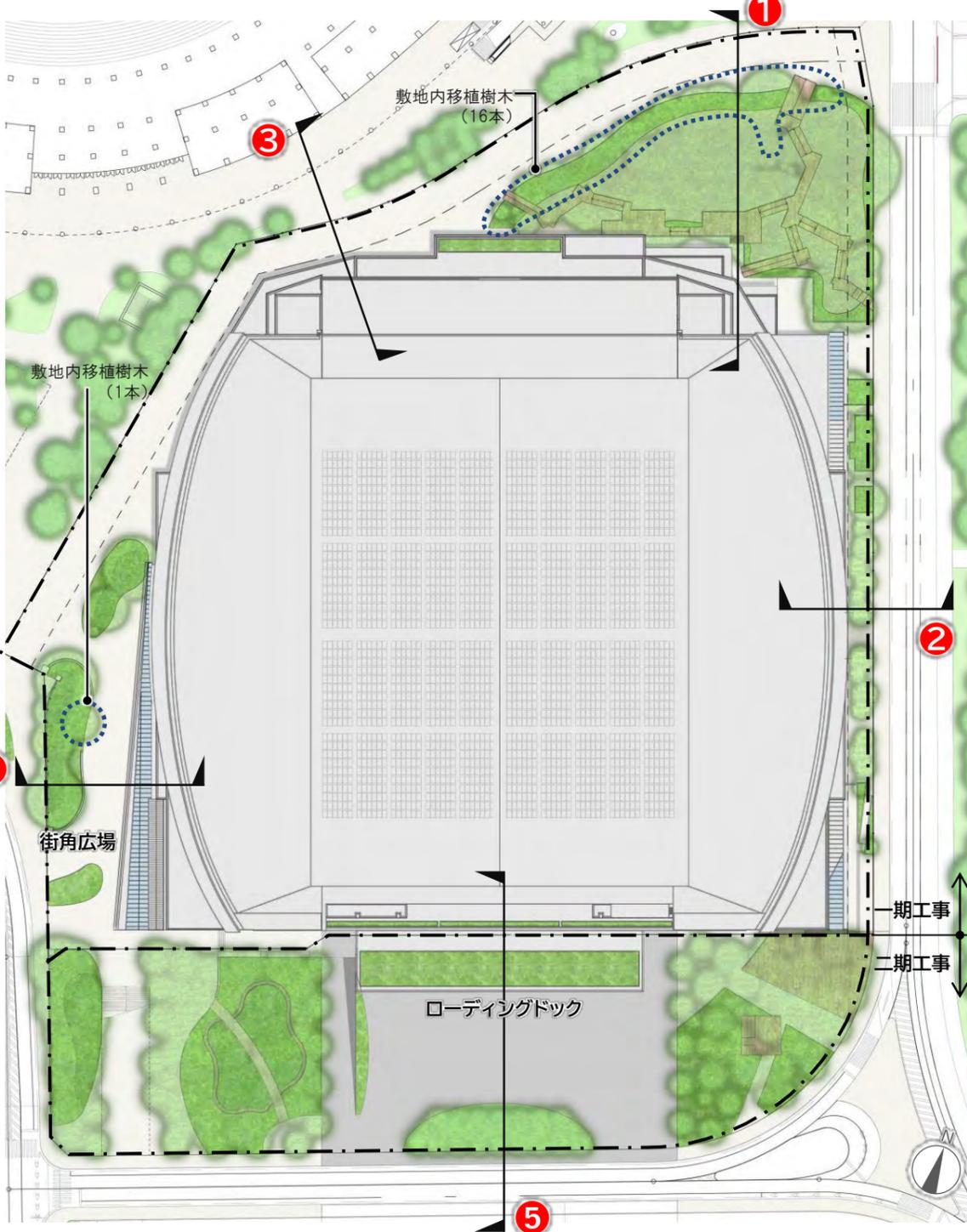
主な既存樹種：

- A：ケヤキ、ヒトツバタゴ、ヤエザクラ 等
- B：ケヤキ、マテバシイ、シイノキ、モクセイ 等
- C：シイノキ、クスノキ 等
- D：シイノキ、ケヤキ 等
- E：ケヤキ



既存植生図

- ・四季を感じられるみどりを形成します。
- ・植物の生育状況や植生環境の変化に合わせた順応的管理及び樹木医診断を行うことで、長いスパンで、魅力ある森の維持を図ります。
- ・可能な限り多くの既存樹を保存すると共に、既存の植生にも配慮した新植樹を選定する外構計画とします。

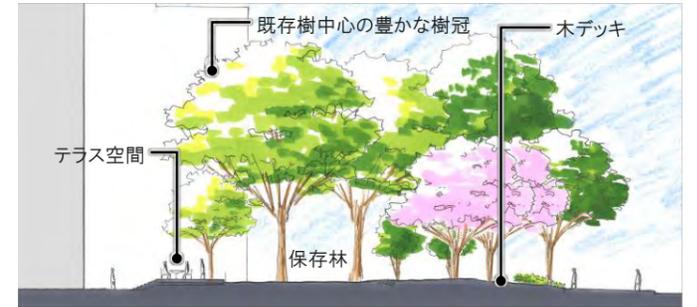


外構図

S=1/1200

①

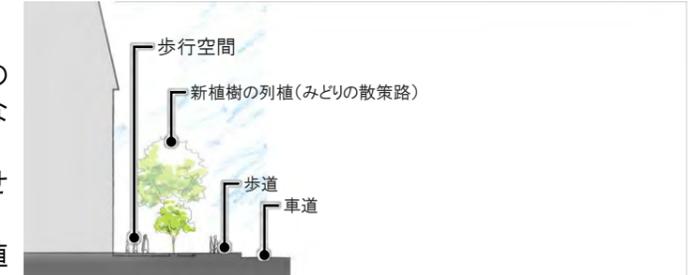
- ・既存樹を保存した豊かな樹冠の下のテラス空間。
- ・保存林内は木デッキによる新たな人々の憩いの場所を計画。



主な樹種：ケヤキ、シイノキ、ヤエザクラ、ヒトツバタゴ、シラカシ

②

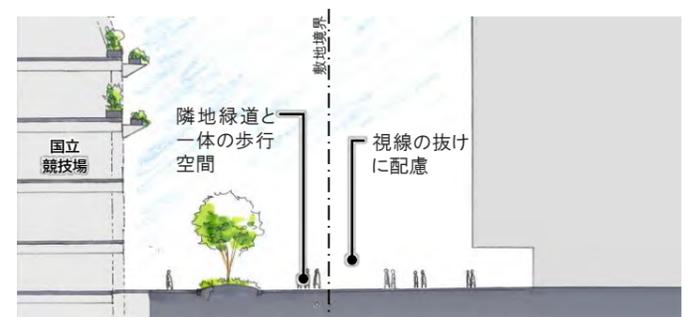
- ・神宮外苑地区全体のみどりネットワークとつながる「みどりの散策路」。
- ・保存林の樹木と合わせた新植樹列植により、対岸樹木とも馴染む植栽計画。



主な樹種：ケヤキ、エノキ、ヒトツバタゴ、トウカエデ、ネズミモチ

③

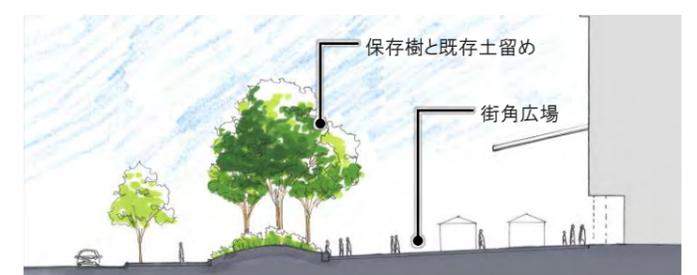
- ・国立競技場の緑道と一体的な歩行空間。
- ・動線や視線の抜けに配慮した歩行者専用路の計画。



主な樹種：ケヤキ、エノキ、スダジイ、アカガシ、イロハモミジ

④

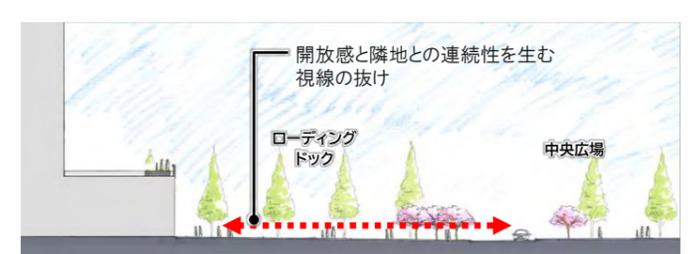
- ・スタジアム通り側メインエントランス前の街角広場。
- ・保存樹、既存土留めを保存活用し賑わいの場を形成。



主な樹種：ケヤキ、エノキ、ムクノキ、シイノキ、スダジイ、クスノキ

⑤

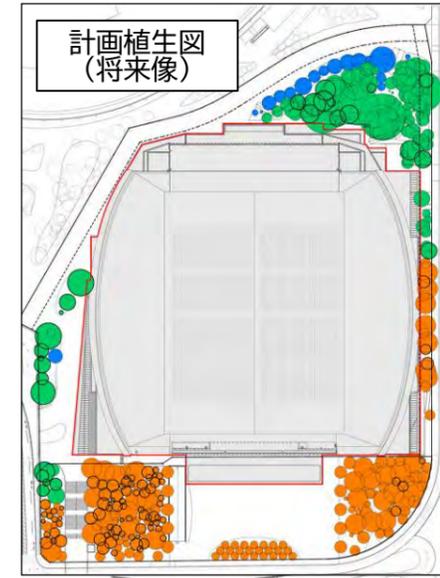
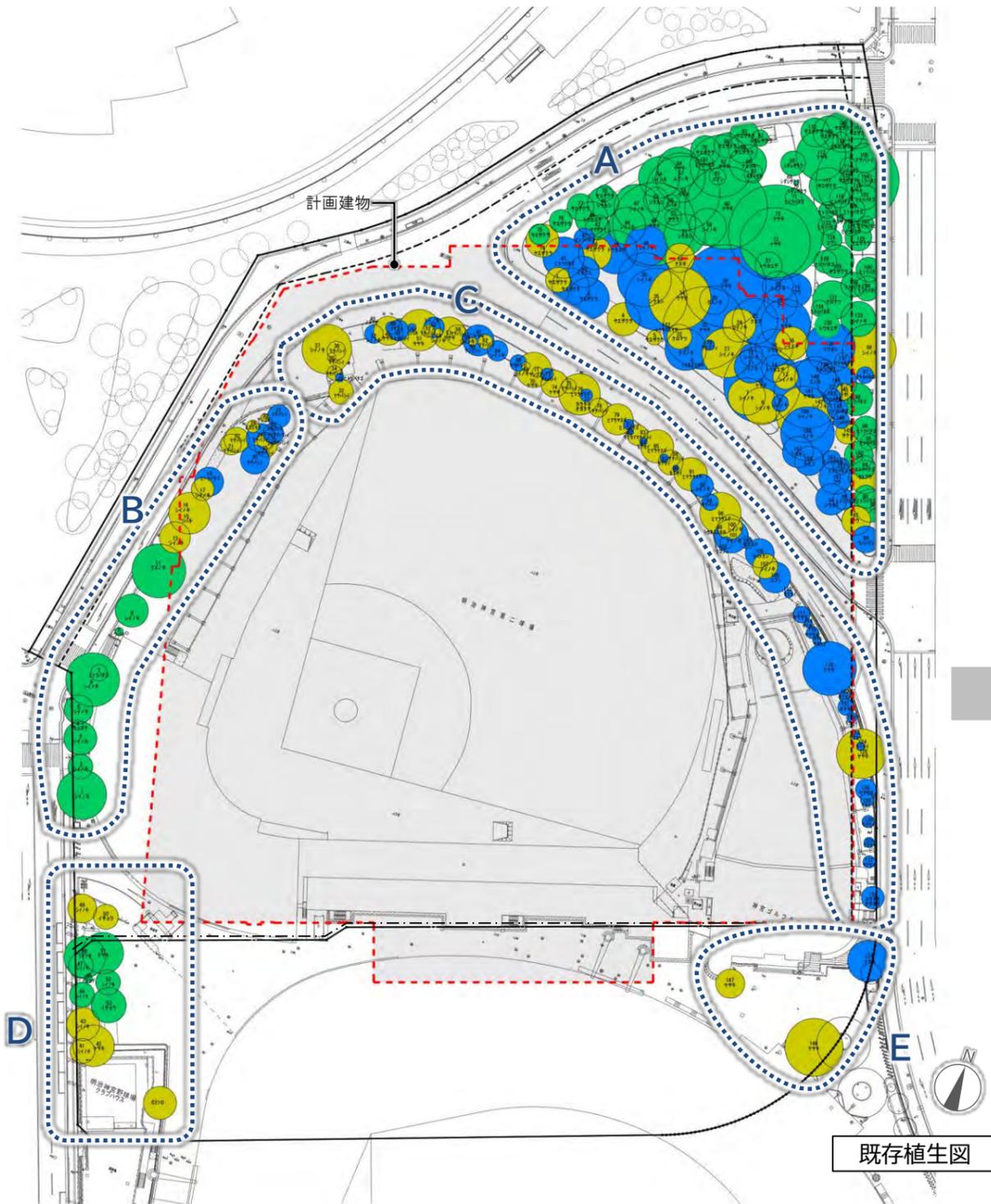
- ・水平の視界抜けを確保するため、下枝を落とした高木とし、隣地(中央広場)との連続性に配慮。
- ・二期工事の外構計画は、この先100年を鑑み、敷地北東の保存林と同様に新たな「森」を形成するべく、現在敷地内にある樹木本数の約1.2倍の樹木を計画します。



主な樹種：サクラ、イチヨウ、ケヤキ、エノキ、ムクノキ、シイノキ

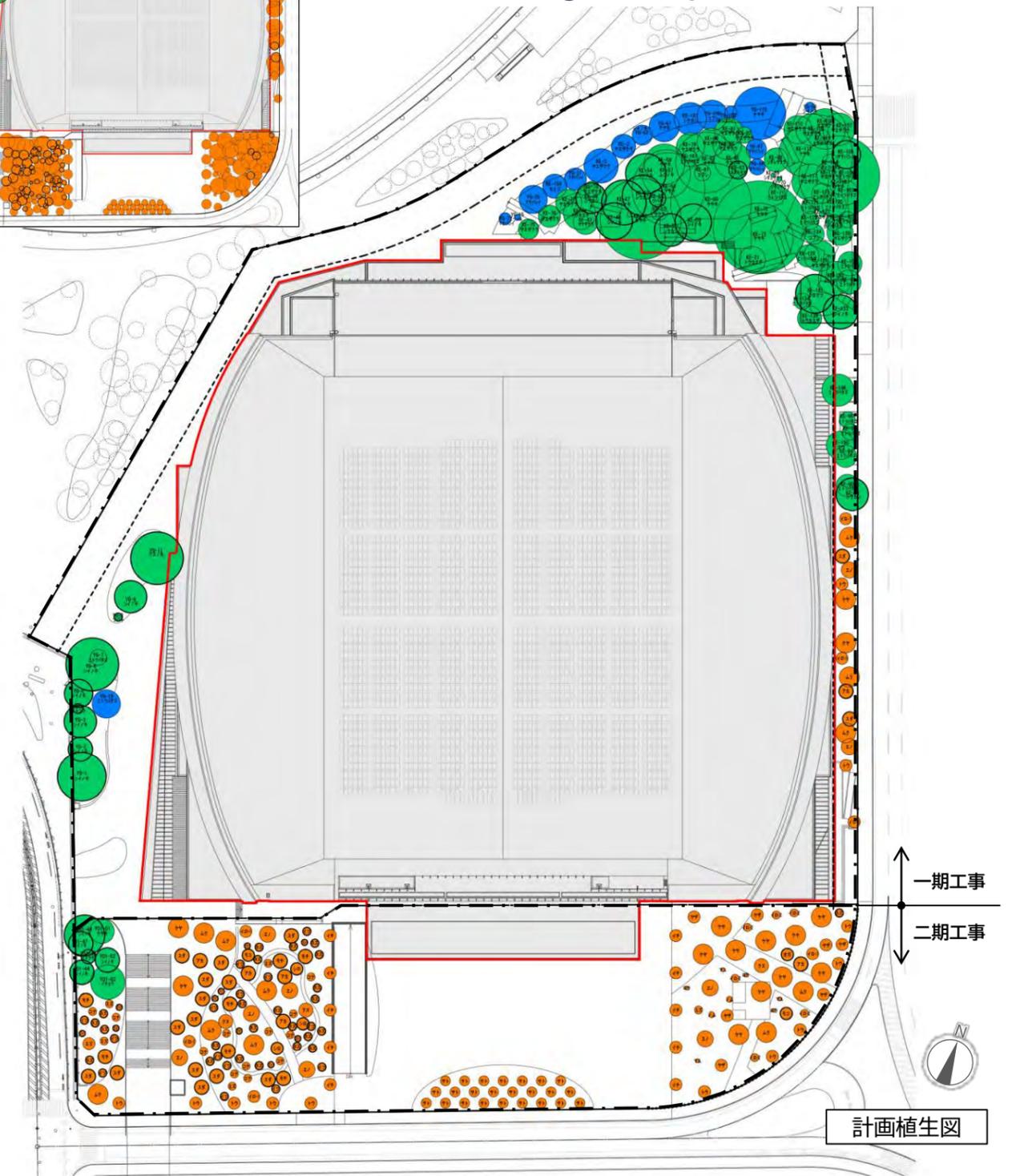
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

	建国記念 (A)	第二球場の一部 (B・C・E)	三塁側の一部 (D)	計
存置 ●	75本	10本	7本	92本
移植 ●	44本	49本	0本	93本
伐採 ●	23本	42本	6本	71本
合計	142本	101本	13本	256本



	一期	二期	計
存置 ●	85本	7本	92本
移植 ●	17本	—	17本
新植 ●	15本	197本	212本
合計	117本	204本	321本

○：常緑樹 ○：落葉樹



※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

従前

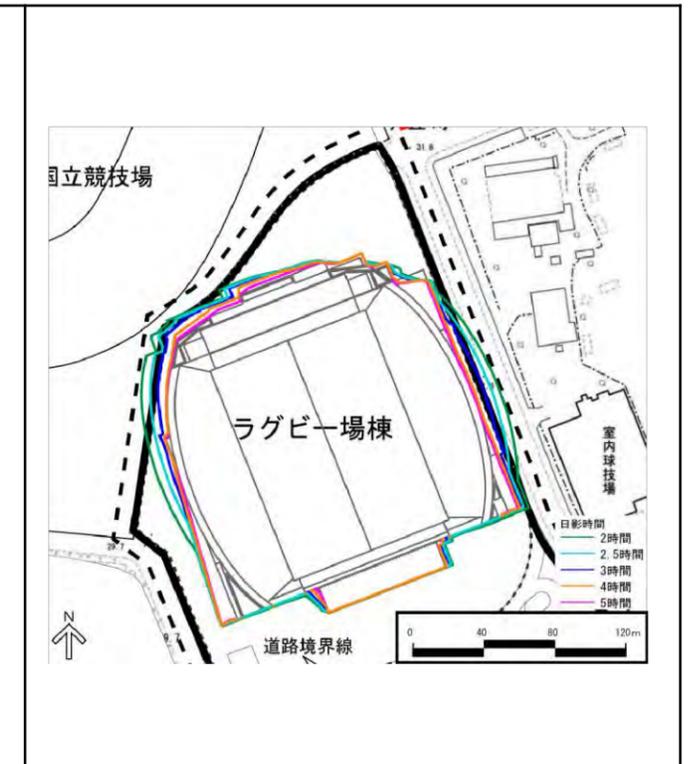
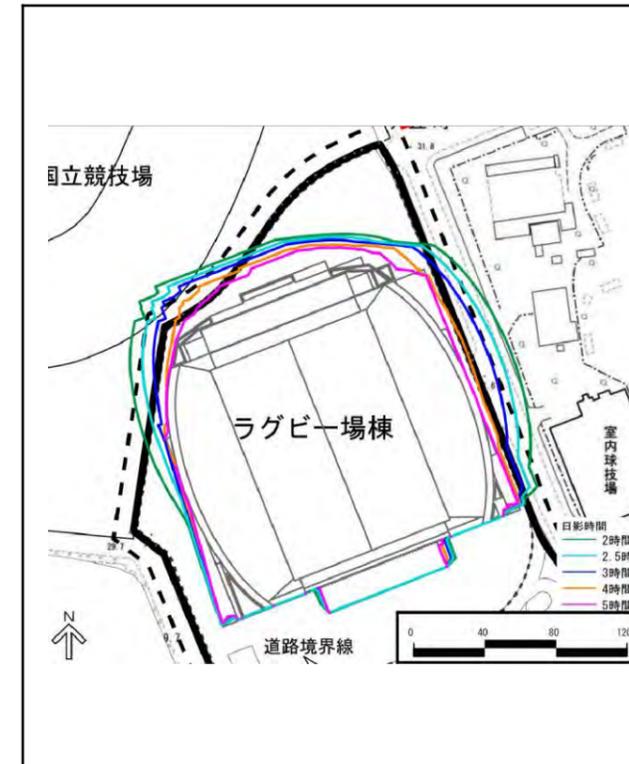
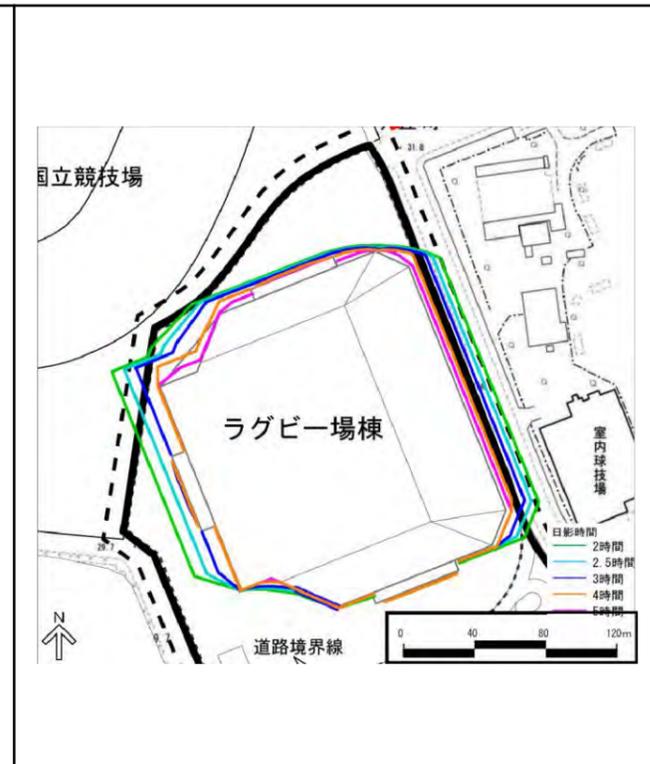
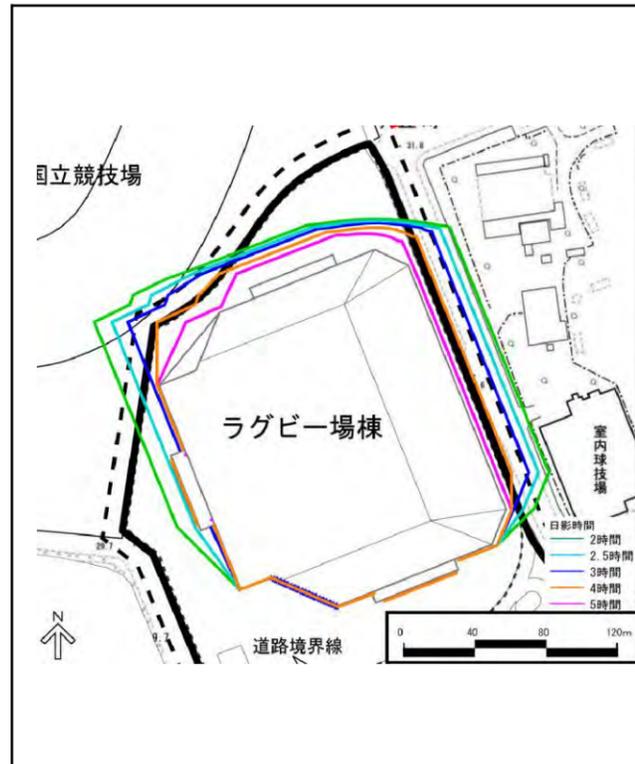
従後

春分

夏至

春分

夏至

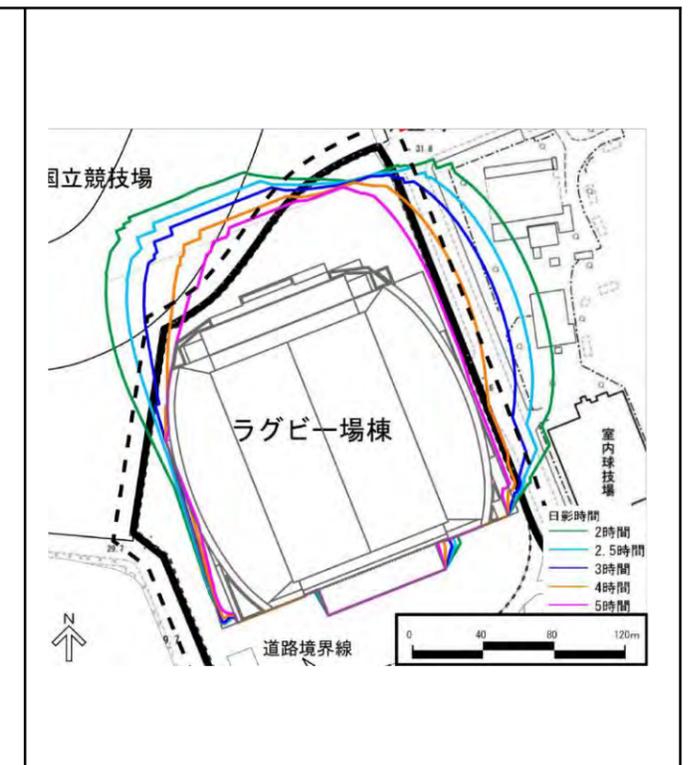
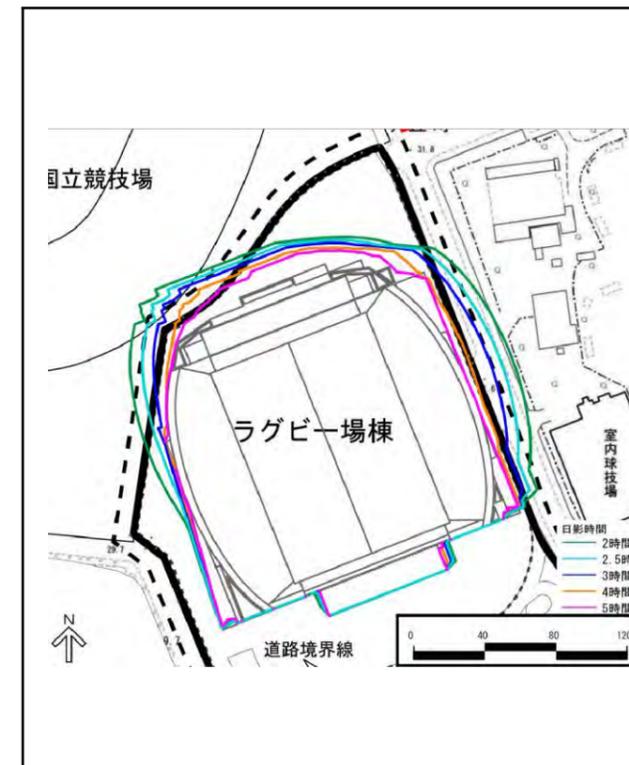
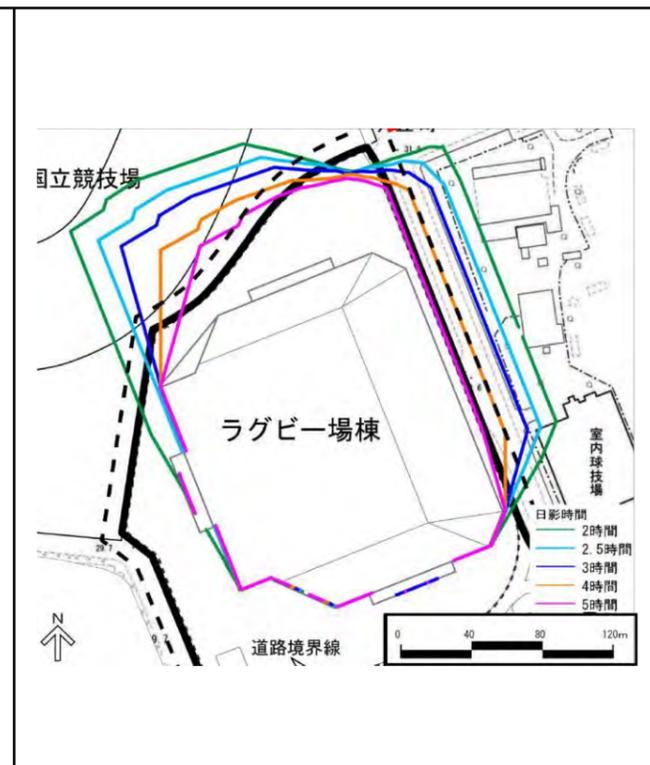
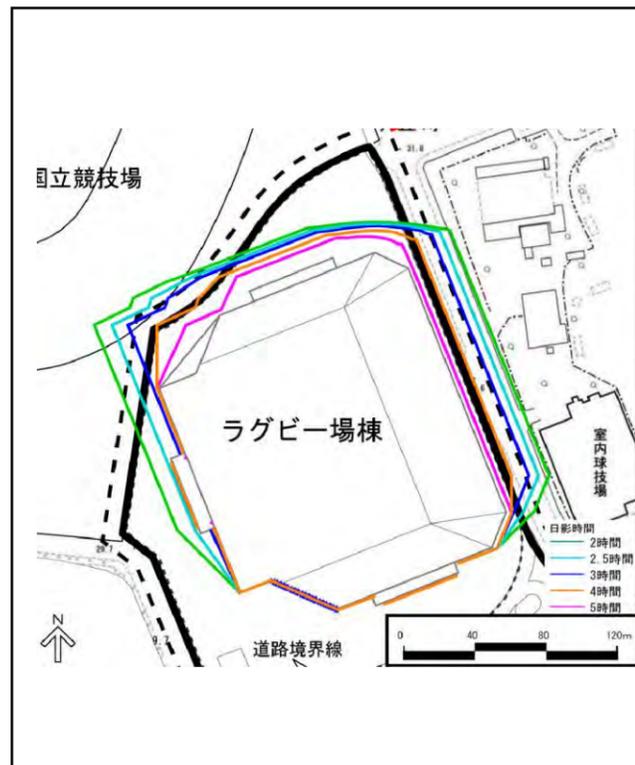


秋分

冬至

秋分

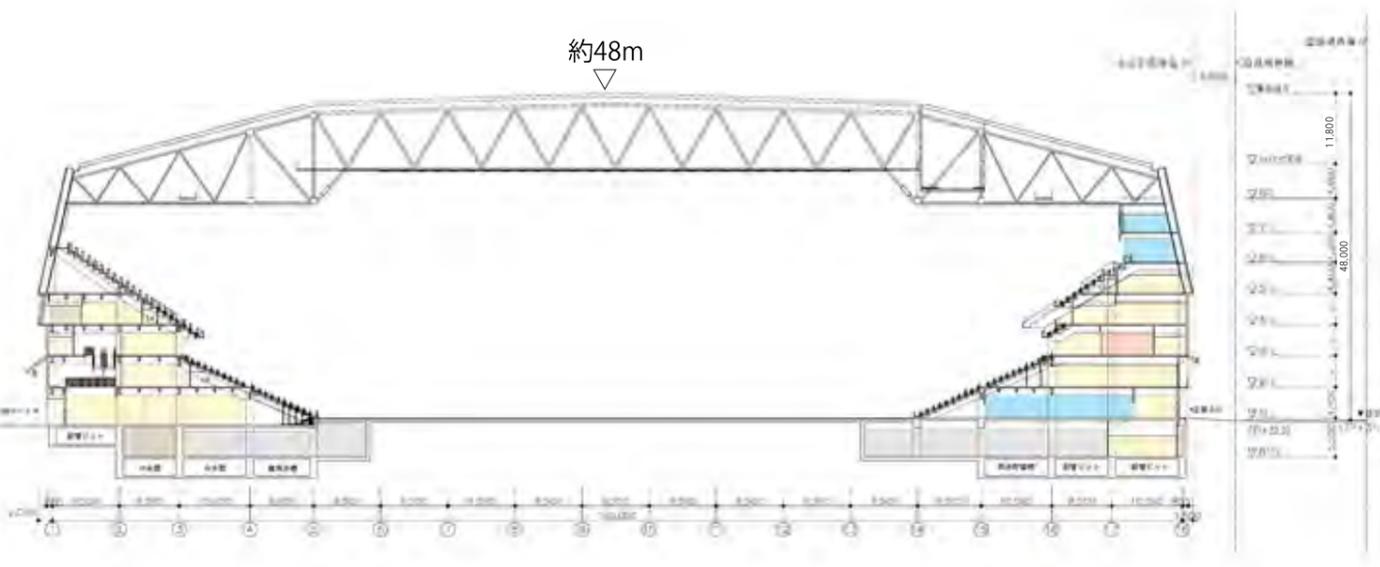
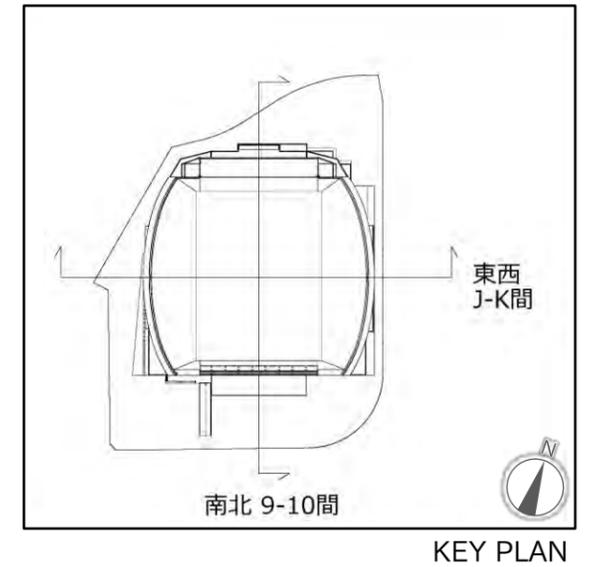
冬至



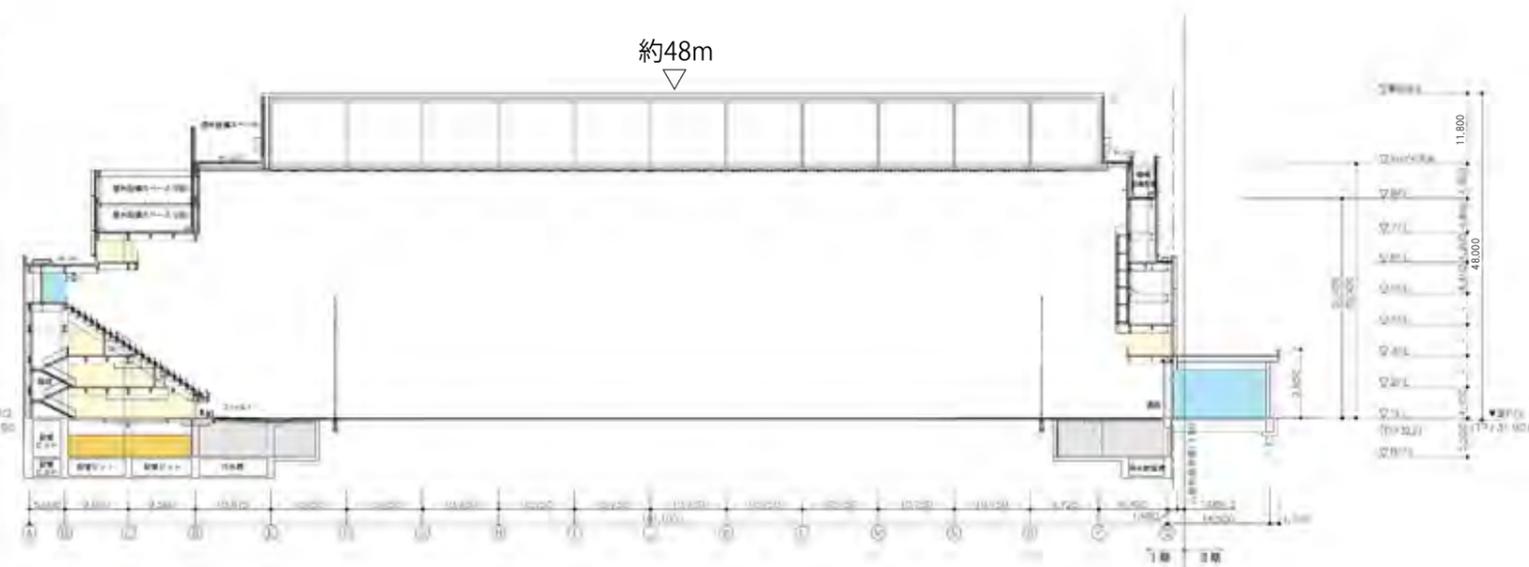
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

【ゾーン分け凡例】

■ (Blue)	: 運営関係者	■ (Yellow)	: スポーツ博物館
■ (Light Yellow)	: 観客	■ (Brown)	: 施設関係者
■ (Orange)	: 店舗・売店	■ (Grey)	: 駐車場・車路



東西断面図 S=1/1000



南北断面図 S=1/1000

※今後の設計の更なる深度化で高さをより抑えていきます

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。



1 記憶の継承 歴史性と場所性の尊重

- 現在の秩父宮ラグビー場の記憶を新しい建物や空間へどのように残していくのか。

- ◆ 外苑創建時からのマスタープランを踏まえた建物配置計画
- ◆ 現秩父宮ラグビー場創建当時の弓なり形状の継承
- ◆ 神宮外苑の歴史保存に寄与
- ◆ 日本スポーツの歴史を展示するスポーツ博物館の継承

3 周辺施設(国立競技場 / 聖徳記念絵画館)との調和 隣接する施設と調和する外観デザイン

- 国立競技場や絵画館を含めたなだらかなスカイラインで形成される景観が大切である。
- 国立競技場とのデザインの整合性や統一感を提案してほしい。

- ◆ 周辺建物と軒高を合わせた外観デザイン

賑わいの創出

隣接街区と連携した街・公園に開く
賑わい空間の演出

5 賑わいを形作る周辺駅からの動線を 考慮したエントランスゲート配置

- ラグビー場としてのにぎわいのにじみ出しを検討してほしい。

- ◆ 国立競技場の前庭広場1号、中央広場、明治公園と連携し街全体のにぎわい創出に寄与
- ◆ 周辺駅からの人の動線を誘引するエントランス計画
- ◆ 各エントランスに併設する店舗による日常的なにぎわいの演出

2 周辺地域との調和 あらゆる方向からの景観に配慮

- 神宮外苑地区全体のまとまり感が出るようにデザインしてほしい。
- 都市において良好な自然的景観にふさわしいデザインを考えてほしい。

- ◆ まちづくりデザインガイドライン
- ◆ 神宮外苑地区全体のスカイラインとの調和を図り周辺主要ポイントからの景観に配慮

4 圧迫感の改善 圧迫感を軽減する建物計画

- ラグビー場に大きなボリュームと壁があるように見えるので、圧迫感がでてしまうことを懸念している。
- デザインの密度が保たれず、ディテールのない大きな建物ができてしまうことを危惧している。

- ◆ 高さ55mから約48mへ低くする建物計画
- ◆ 弓なりの大屋根デザインによる圧迫感の改善
- ◆ 隣接する国立競技場の軒天と調和した来訪者を迎える木質の大庇、壁面を分節し街並みに調和する低層部
- ◆ ラグビースクラムをイメージした大屋根を形成する構造フレーム

6 神宮外苑地区の緑豊かな景観形成に対する配慮 歴史ある緑と調和する外構計画

- 神宮外苑地区全体のみどり・歩行者ネットワークを踏まえ計画してほしい。
- みどりは樹木の育成を含め長期スパンを踏まえ計画してほしい。

- ◆ 神宮外苑地区全体のみどりネットワークとの連携
- ◆ 保存樹増、遺構保存活用による歴史ある外構との調和
- ◆ 保存樹・新植樹で囲まれた外構計画
- ◆ 「みどりの散策路」と連携した敷地北東の保存林

※斜体文字は、令和3年10月28日開催の第72回新宿区景観まちづくり審議会が出た意見をまとめました。

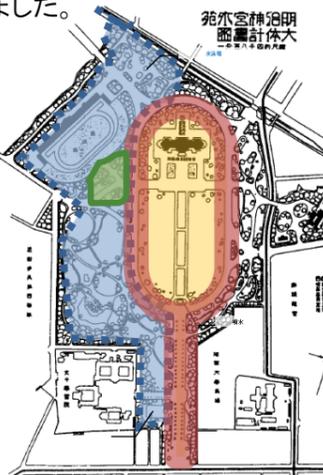
1. 歴史性と場所性の尊重

◆ 外苑創建時からのマスタープランを踏まえた建物配置計画

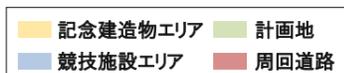
● 神宮内苑が「社殿を中心とした静寂で威厳のある大森林と優美な庭園」であるのに対し、外苑は「大衆の屋外レクリエーションのための広大な景園地」を造園計画の基本方針として建設されました。

● 外苑には、記念建造物と競技施設が並び建っていますが、その二つの異なるエリアを正確にゾーニングするうえで、周回道路は有効であると考えられました。

● 競技施設を周回道路の外側にまとめるゾーニングによって、違和感なく記念施設と競技施設を共存させる計画が実現され、現在に至ります。



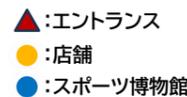
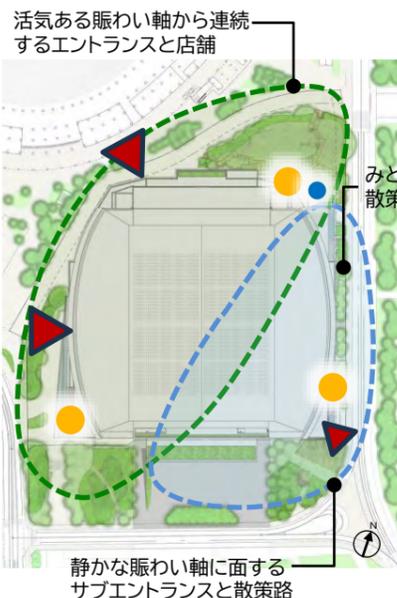
明治神宮外苑の景観構成
神宮外苑(大体計画図)
明治神宮外苑造営誌より



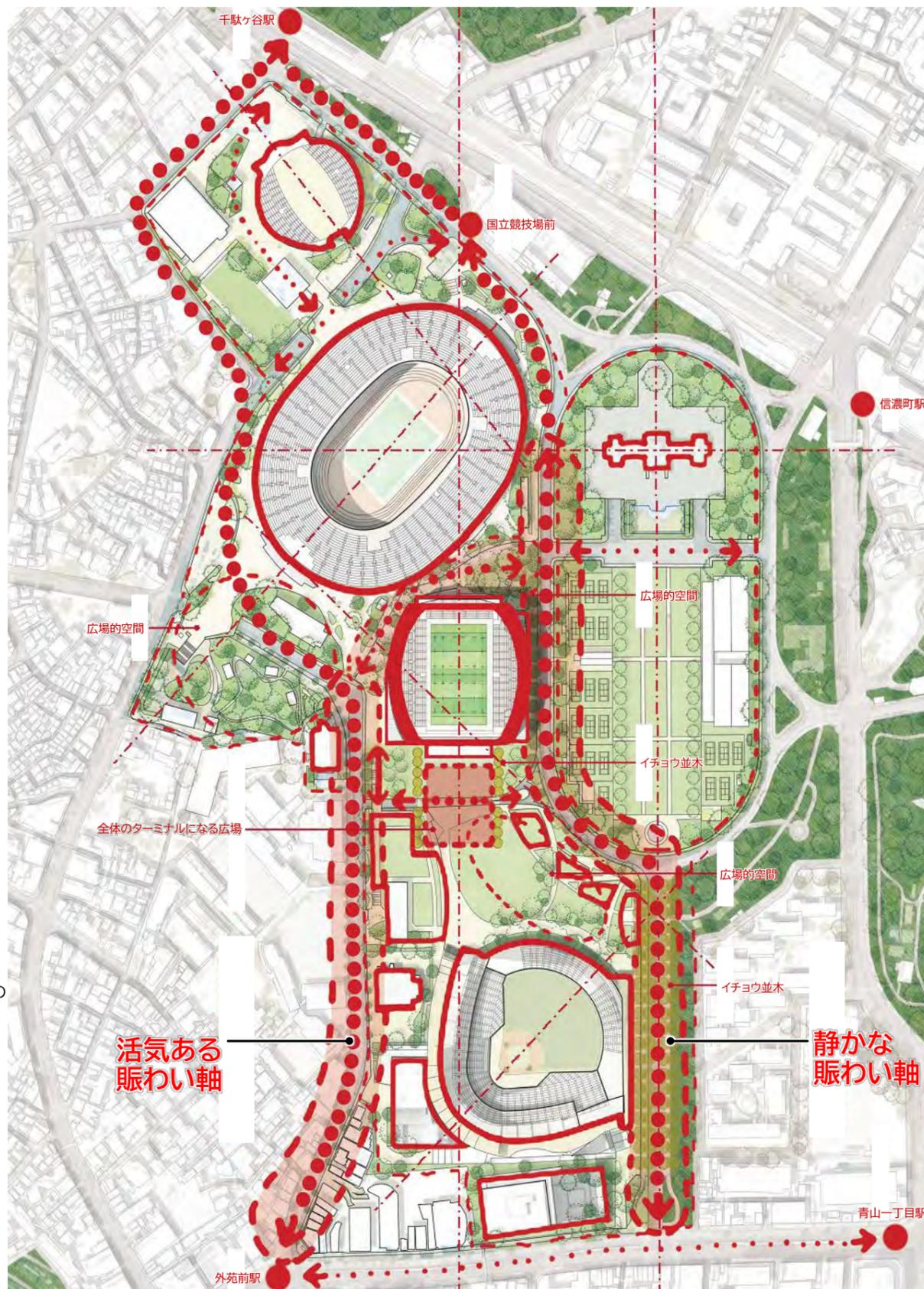
● 私たちは、外苑創建時からのマスタープランを踏まえ、現存する東側の周回道路を「静かなにぎわい軸」、西側のスタジアム通りを「活気あるにぎわい軸」と読み解き、まちと調和したネットワークを作ります。

● 二つの都市軸に平行に、東西対称の大屋根を計画します。

● 活気ある賑わい軸にメインエントランス、店舗を計画、静かな賑わい軸にサブエントランス、散策路を計画します。



静かな賑わい軸に面するサブエントランスと散策路



神宮外苑に存在する都市軸の分析(建築家:内藤廣 スケッチ)

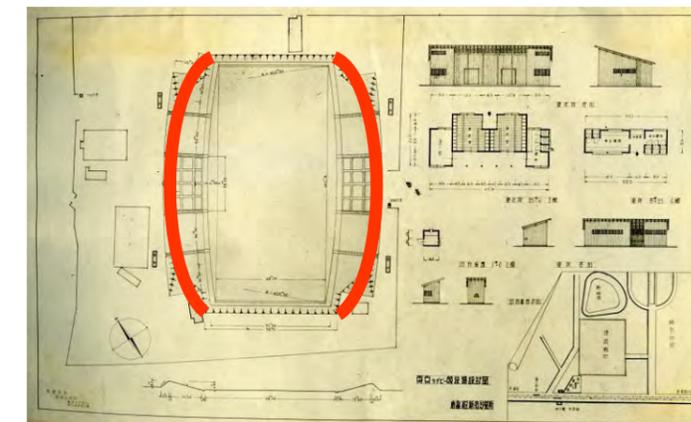
◆ 現秩父宮ラグビー場創建当時の弓なり形状の継承

● 創建当時のラグビー場を彷彿させる弓なり曲面の大屋根が聖地を象徴します。

● ラグビーボールを柔らかく包みこむ形は内部スタンドの一体感を生み出します。



ラグビーボールのフォルム



創建時(昭和22年11月)の東京ラグビー場(現秩父宮ラグビー場)



新ラグビー場鳥瞰イメージパース

◆ 神宮外苑の歴史保存に寄与

● 神宮外苑の主要な門の一つ霞ヶ丘門の現存する一基の古石材を活用し敷地内にモニュメントや記念プレート等の形で遺構を残します。



遺構モニュメントイメージ

◆ 日本スポーツの歴史を展示するスポーツ博物館の継承

● 日本スポーツの歴史を体験できる、旧国立競技場に設置されていた日本で唯一の総合スポーツ博物館を継承します。「スポーツの多様な価値を伝えるネットワークの拠点」として、情報発信拠点・資料収集・保存・継承の位置付けとともに、広く国民にスポーツの価値を伝えていき、歴史を継承するという役割を担っております。

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

2.あらゆる方向からの景観に配慮

◆まちづくりデザインガイドライン

- 神宮外苑まちづくりエリアを統括するデザインガイドラインに則り、神宮外苑地区全体でまとまり感あるまちづくりに寄与します。

タウンマネジメント準備分科会

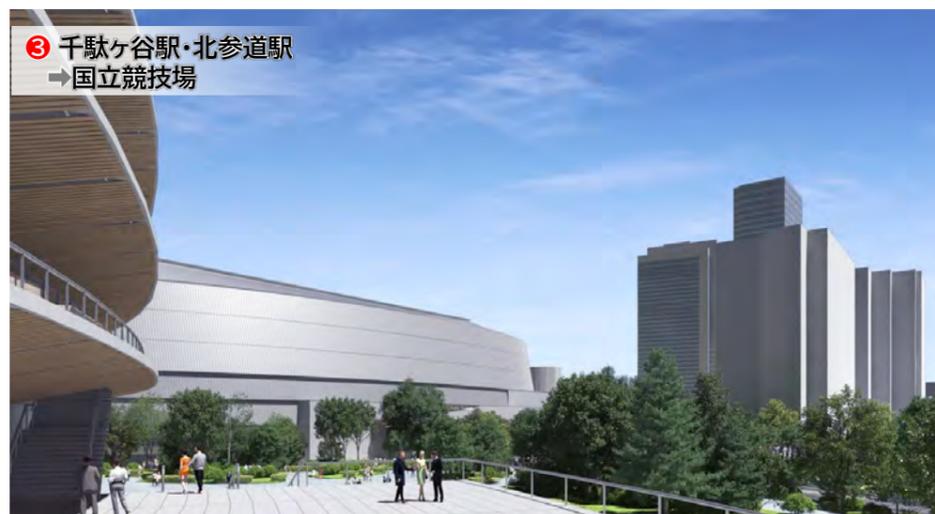
デザイン調整会議(みどり) デザイン調整会議(照明) デザイン調整会議(サイン)

- 設計者はデザイナーのプランをベースに、「①舗装②植栽③街の案内・誘導サイン④ライティング⑤バナー⑥ストリートファニチャー」を具体的にデザインし、各調整会議で方針決定していきます。

- 建物のデザインは「タウンマネジメント準備分科会」にて適時検討状況を共有し、各街区設計者が、まちづくりデザインガイドラインに照らし検討します。

◆神宮外苑地区全体のスカイラインとの調和を図り周辺主要ポイントからの景観に配慮

- 新ラグビー場の最高高さを、従前案の最高高さ55mよりも大幅に低くし、青山通りへと続く地区全体のスカイラインと調和した計画とします。
- 様々な視点から検証し、歩行動線上からの視認性を保ちつつ、スタジアムを包み込むゆるやかな円弧状の大屋根が景観に配慮します。



※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

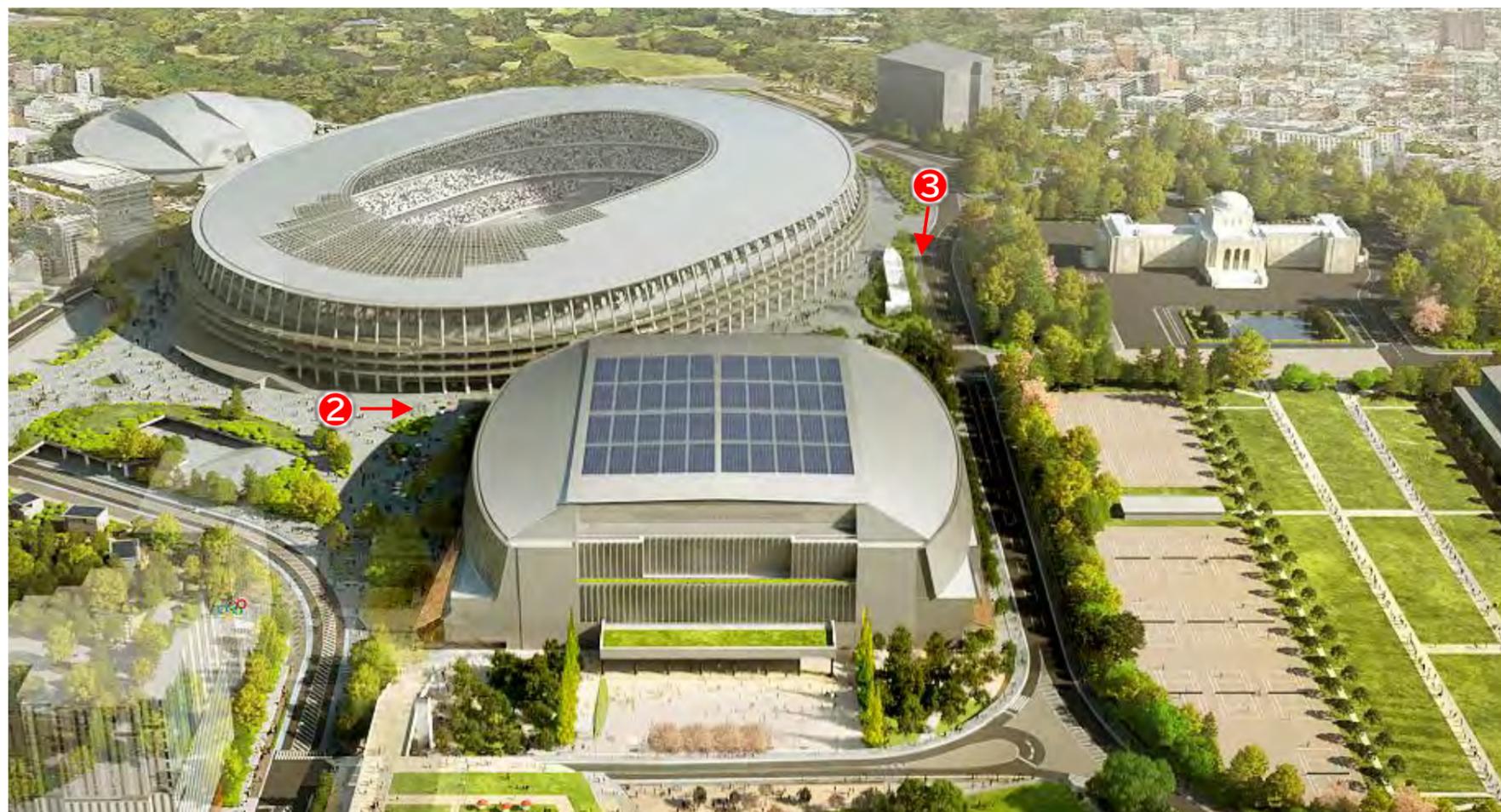
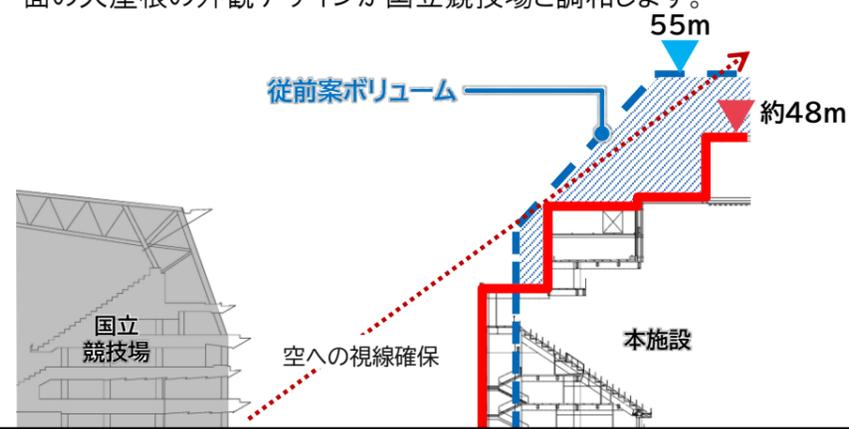
3.隣接する施設と調和する外観デザイン

◆周辺建物と軒高を合わせた外観デザイン

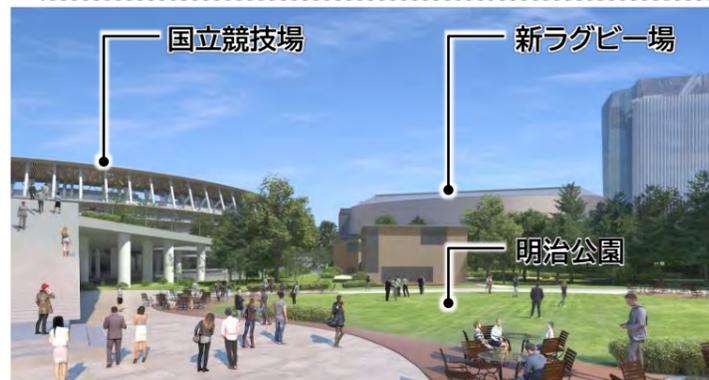
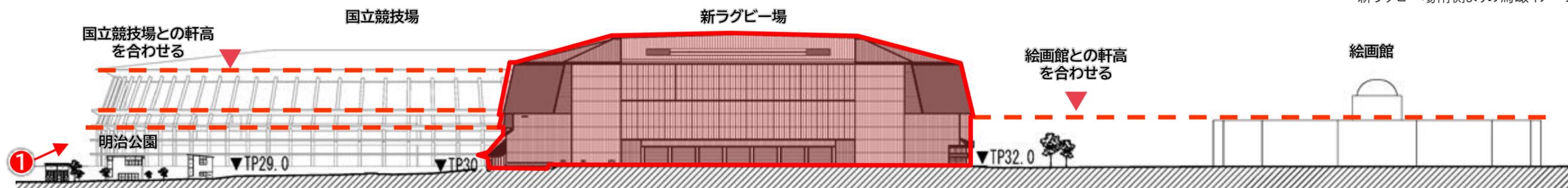
- 屋根の高さを抑え、従前案と比較して圧迫感を感じない、周辺施設と調和を図った計画とします。



- 隣接の国立競技場と絵画館と軒高を同程度とし、さらに上部を傾斜屋根とし全体の圧迫感を抑制します。
- 創建当時の秩父宮ラグビー場のデザインを継承する大きな弓なり曲面の大屋根の外観デザインが国立競技場と調和します。



新ラグビー場南側よりの鳥瞰イメージ



① 明治公園から新ラグビー場/国立競技場を見る



② 新ラグビー場北西角を見る



③ 国立競技場から新ラグビー場北東角を見る

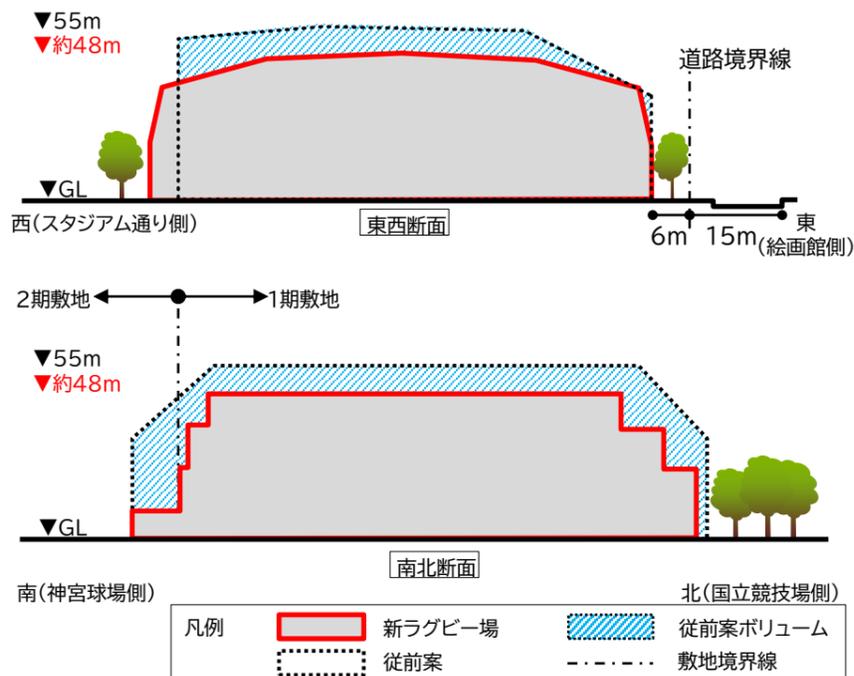
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

圧迫感の改善

4. 圧迫感を軽減する建物計画

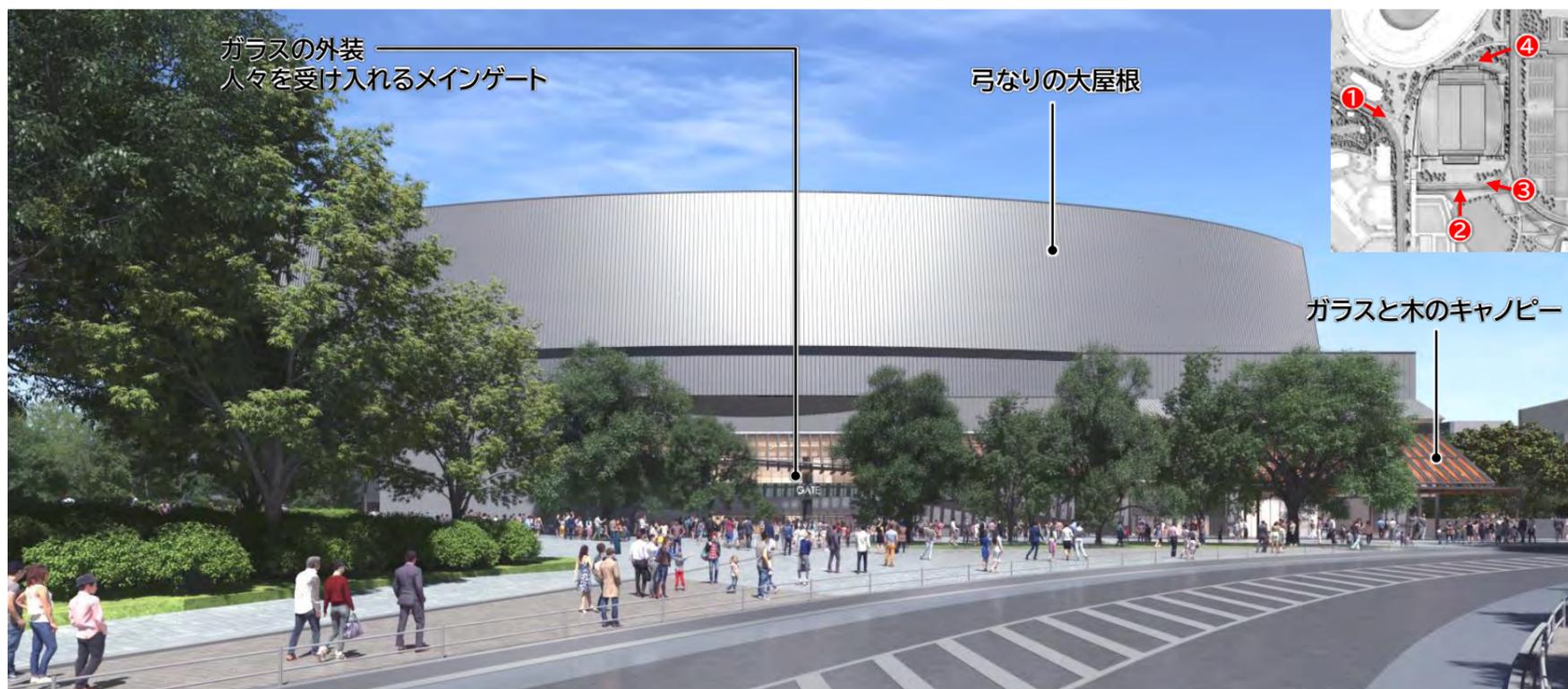
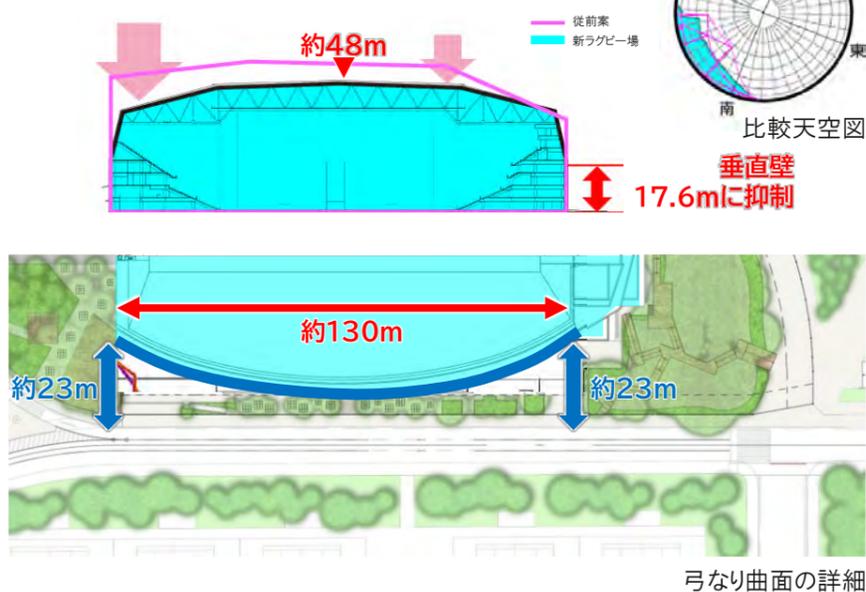
◆ 高さ55mから約48mへ低くする建物計画

- 平均地盤面からの最高高さは定められた55mよりも低い約48mとし、従前案に比べ大幅に改善することで、圧迫感を軽減します。
- 今後の設計の深度化において、高さの更なる低減を図ります。



◆ 弓なりの大屋根デザインによる圧迫感の改善

- 施設の北東角及び南東角を最大限セットバックさせ、垂直壁の高さを抑制することで、約130mの東壁面の圧迫感を軽減した計画とします。



① スタジアム通りから西立面を見る



② 中央広場から南立面を見る



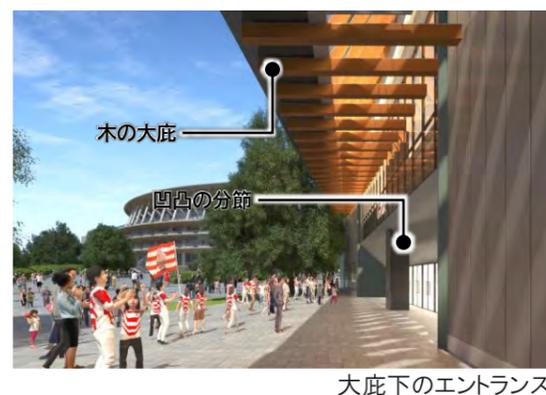
③ 新設区道から南東立面を見る



④ 保存林越しの北東立面を見る

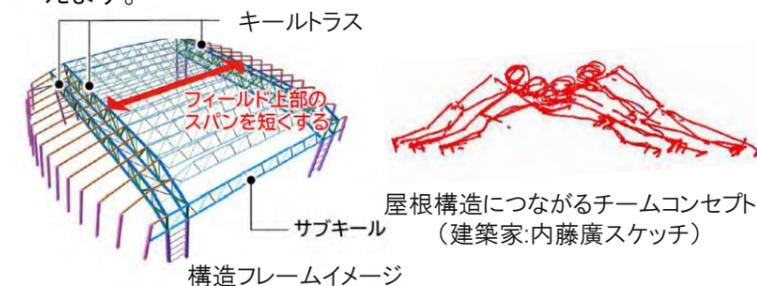
◆ 隣接する国立競技場の軒天と調和した来訪者を迎える木質の大庇 壁面を分節し街並みに調和する低層部

- 低層部は内外を一体的につなげるガラスを使用し、エントランスゲートに木を使用した庇が人々をやさしく迎え入れます。
- 視線レベルの圧迫感をなくすため、低層部平面は凹凸の形状で分節します。
- ラグビー場エントランス周辺は樹木と協調したグリーンカラーとします。



◆ ラグビースクラムをイメージした大屋根を形成する構造フレーム

- 観客席上部に大きな組梁(キールトラス=竜骨)を設けフィールド上部のトラススパンを短くすることで建物高さを抑えます。



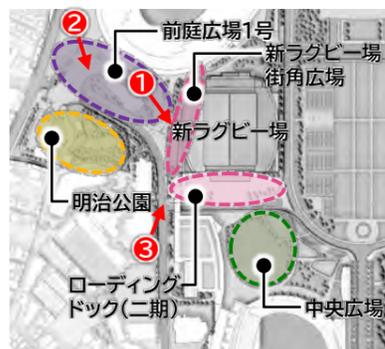
※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

賑わいの創出

5.隣接街区と連携した街・公園に開く賑わい空間の演出

◆国立競技場の前庭広場1号、中央広場、明治公園と連携し街全体のにぎわい創出に寄与

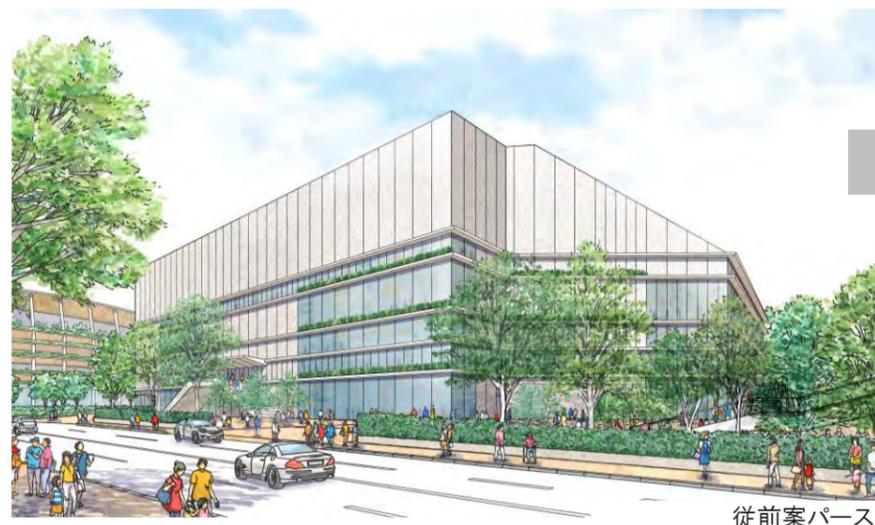
- 国立競技場での同時イベント開催時には様々な屋台やグッズショップなどが軒を連ね、街全体のにぎわいに貢献できる街角広場を設けます。
- 施設南側は多目的に使用できる広い空間を計画し、中央広場と連携し一体の賑わい創出に寄与します。(イメージパース次ページ図06)
- 明治公園とも連携し、神宮外苑地区全体のにぎわい創出に寄与する。



①前庭広場1号から新ラグビー場を見る



②前庭広場1号との賑わい連携イメージ



従前案パース



③新ラグビー場パース



隣接街区との連携イメージ



スタジアム通りからの夜景イメージ



国立競技場側からの夜景イメージ



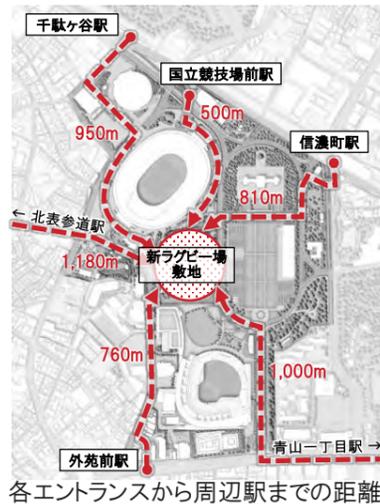
周回道路からの夜景イメージ

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

5.賑わいを形作る周辺駅からの動線を考慮したエントランスゲート配置

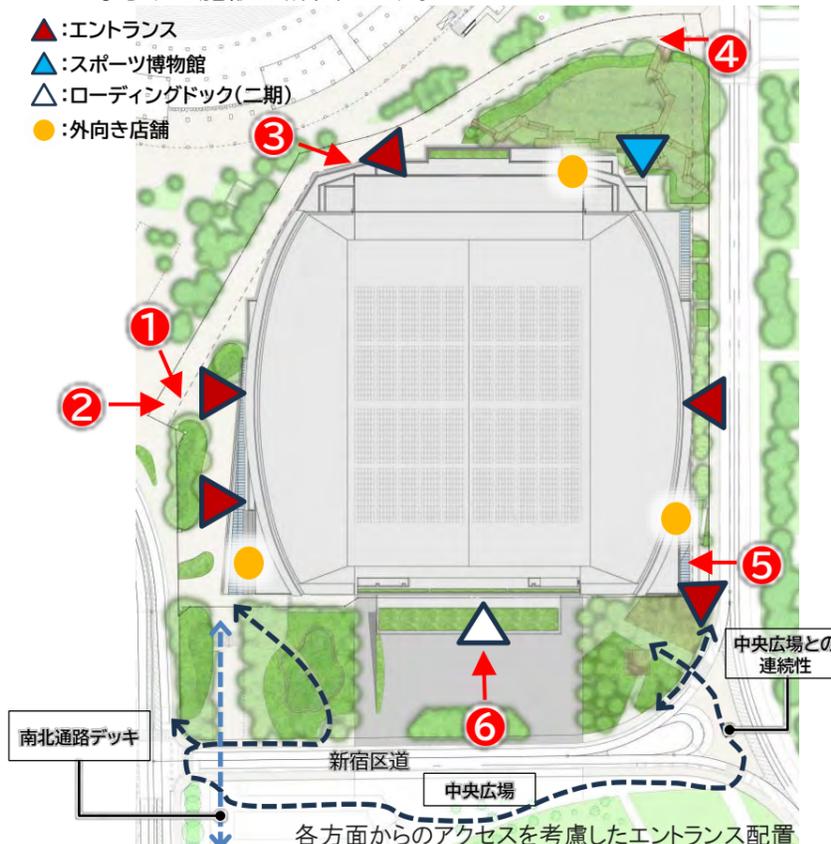
◆周辺駅からの人の動線を誘引するエントランス計画

- エントランスを東西南北に設け、人々がどこからでもアクセス可能な開かれた計画とします。
- 各駅からの交通量予測をもとに、人流に応じた十分な前庭空間を持ったエントランスを複数ヶ所設けます。
- 周辺交通機関からの動線を考慮し配置した観客エントランス周りの軒天見上げに木材等を使用することし、国立競技場との協調性を考えます。



◆各エントランスに併設する店舗による日常的な賑わいの演出

- ラグビーやその他のイベントがない日も、訪れる様々な人々の利用を想定し、各駅からアクセスしやすい3つのエントランスゲート付近に外向き店舗を配置し、日常的な賑わいを創出します。
- 街・公園に開く施設として、各エントランスゲートを中心に、賑わいに寄与する施設を計画します。



①街角広場



②西メインエントランスゲート



③北西エントランスゲート



④新ラグビー場北側歩行者専用路



⑤南東エントランスゲート



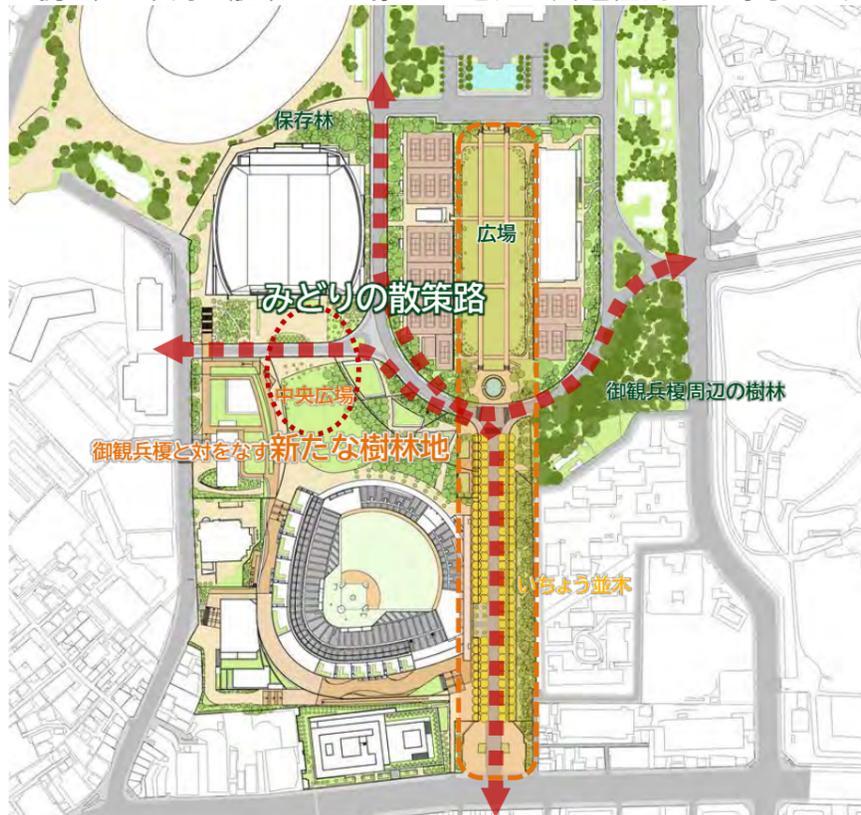
⑥南ローディングドックを解放したイメージ

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。

6. 歴史ある緑と調和する外構計画

◆ 神宮外苑地区全体のみどりネットワークとの連携

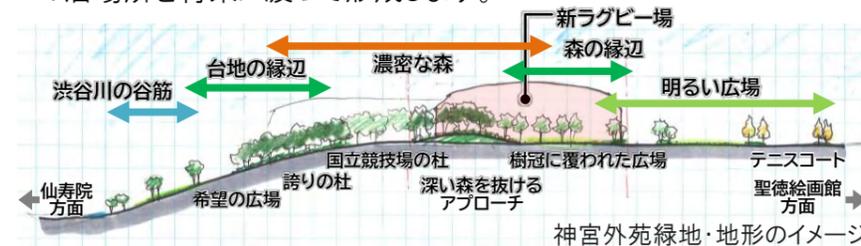
- 神宮外苑まちづくり地区を南北に貫く「みどりの散策路の整備」と連携し、日常的に散歩できる場として地区の回遊性向上に寄与します。



神宮外苑みどりのネットワークイメージ(神宮外苑地区まちづくりHPを参照)

◆ 保存樹・新植樹で囲まれた外構計画

- 周辺の古くからある緑地や地形を読み解き、再整備計画と整合するよう、緑地のバリエーションを増やし、人を含む様々な生き物にとっての居場所を将来に渡って形成します。



神宮外苑緑地・地形のイメージ

- 二期エリアには、イチヨウやサクラ等の新植樹木を約190本計画することで、敷地内の樹木は当初敷地内の樹木数より約1.2倍に増えます。
- 植物の生育状況や植生環境の変化に合わせた順応的管理及び樹木医診断を毎年行うことで、長いスパンで、魅力ある森の維持を図ります。
- 樹木の移植に適した時期、工事工程を慎重に鑑み、新ラグビー場二期敷地に適した移植樹木があるかを再開発事業者と協議のうえ検証し、人々の憩いの場を形成します。

◆ 保存樹増、遺構保存活用による歴史ある外構との調和

- 従前案から平面計画を見直し、敷地内の保存樹木を最大限残す計画とし、敷地西側の土留めを保存活用します。
- 従後案では、ラグビー場北東壁面を最大限セットバックすることで、従前案よりもさらに存置樹木を14本増加します。

- 保存林の中に木デッキを敷設します。サイン計画と合わせて、歩行者が自然とスポーツ博物館に辿り着く動線を計画します。
- 歩行者の動線を限定することで保存樹木の根を守りつつ、新たな人々の憩いの場所を計画します。



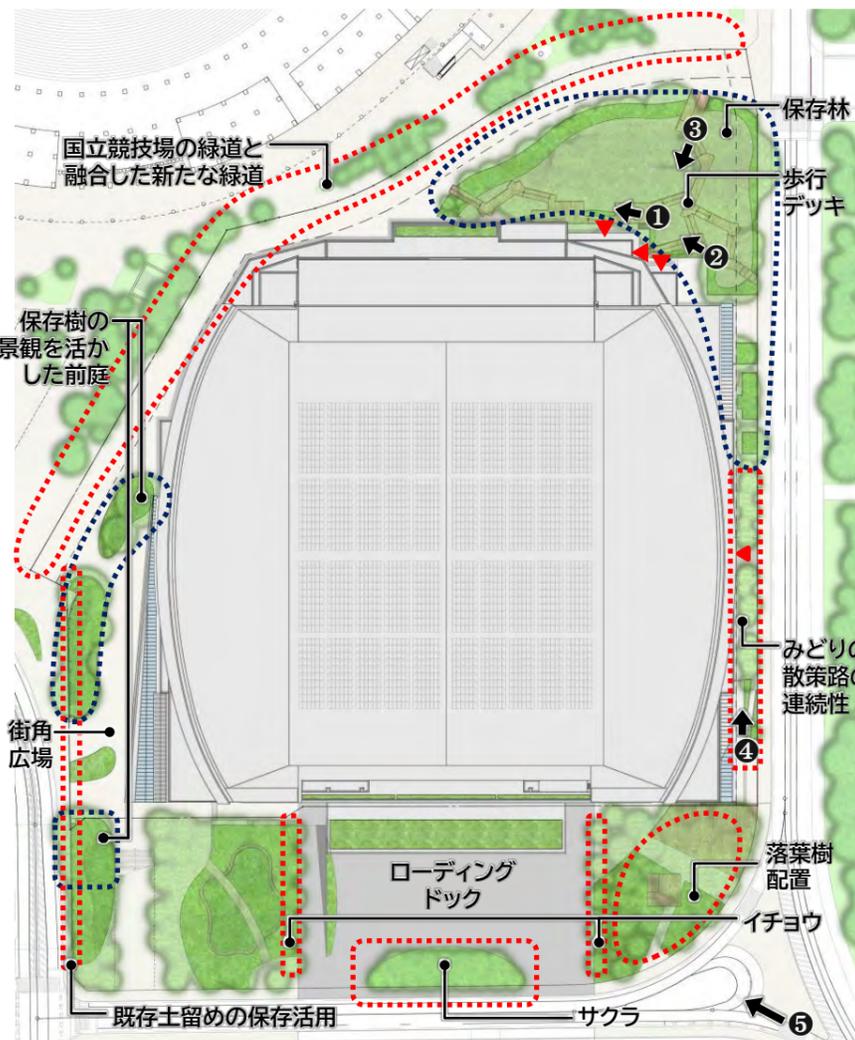
① 外向店舗周辺のイメージ



② 歩行デッキのイメージ



③ 新たな憩いの場イメージ



◆ 神宮外苑地区を南北に連なる「みどりの散策路」

- イチヨウ並木から連続するみどりの散策路は、敷地北東保存林や東道路向こうの樹木に呼応する新植樹の樹種選定を行います。
- 存置樹木と協調するように、ランダムな樹木配置の静かな賑わい軸を計画し、イチヨウ並木から続く魅力的な散策路としての歩行空間を計画します。
- また敷地南東は落葉樹を多く選定することで、四季を感じられる情緒ある風景の形成に寄与します。



春～夏



秋～冬

④ みどりの散策路イメージ



春～夏



秋～冬

⑤ 新たな樹林地方面から新秩父宮ラグビー場を南東面を見る

※今後の施設計画の検討や行政協議により、計画内容に変更が生じる可能性があります。